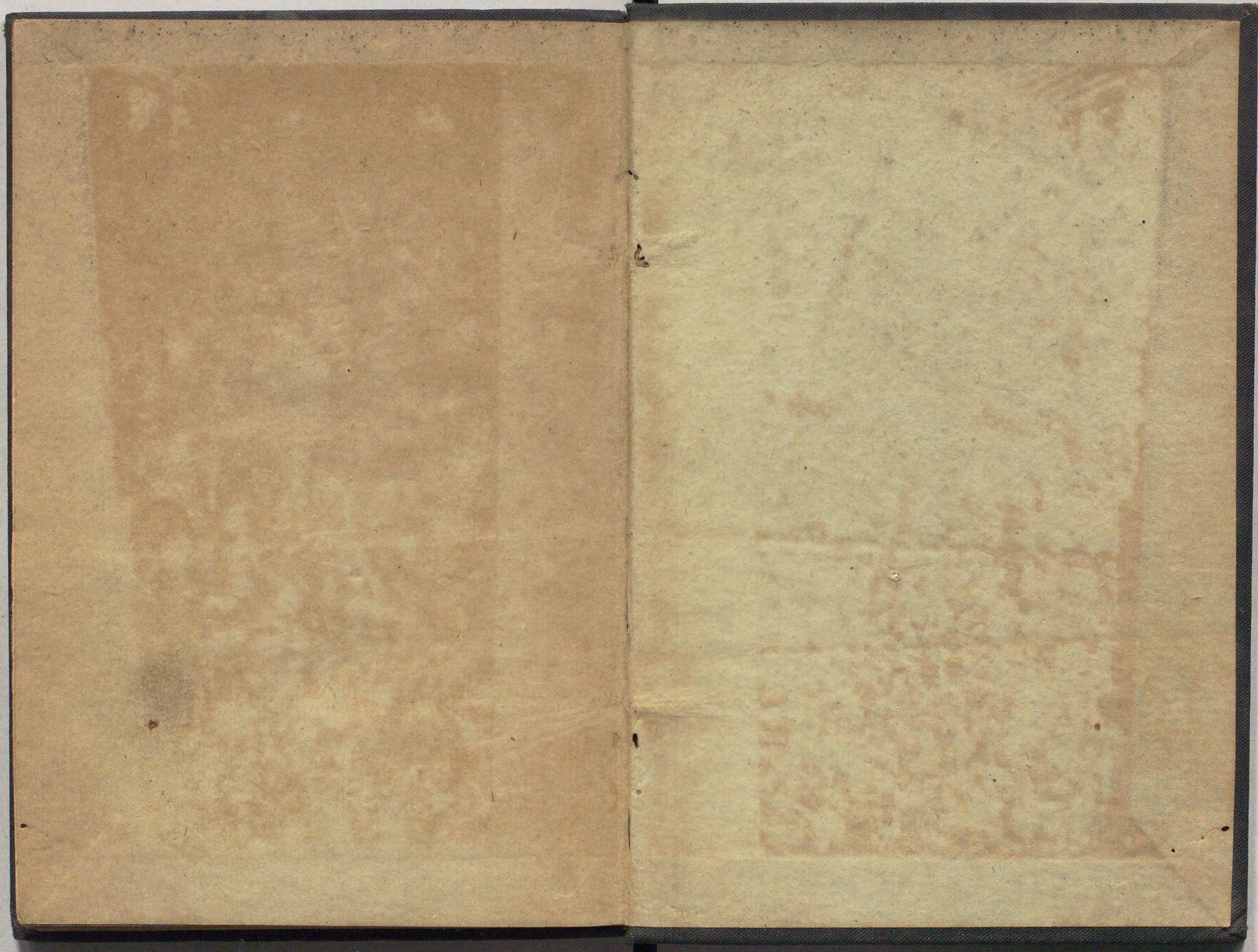


25
561

M

Fragment of a label with illegible text and decorative border.

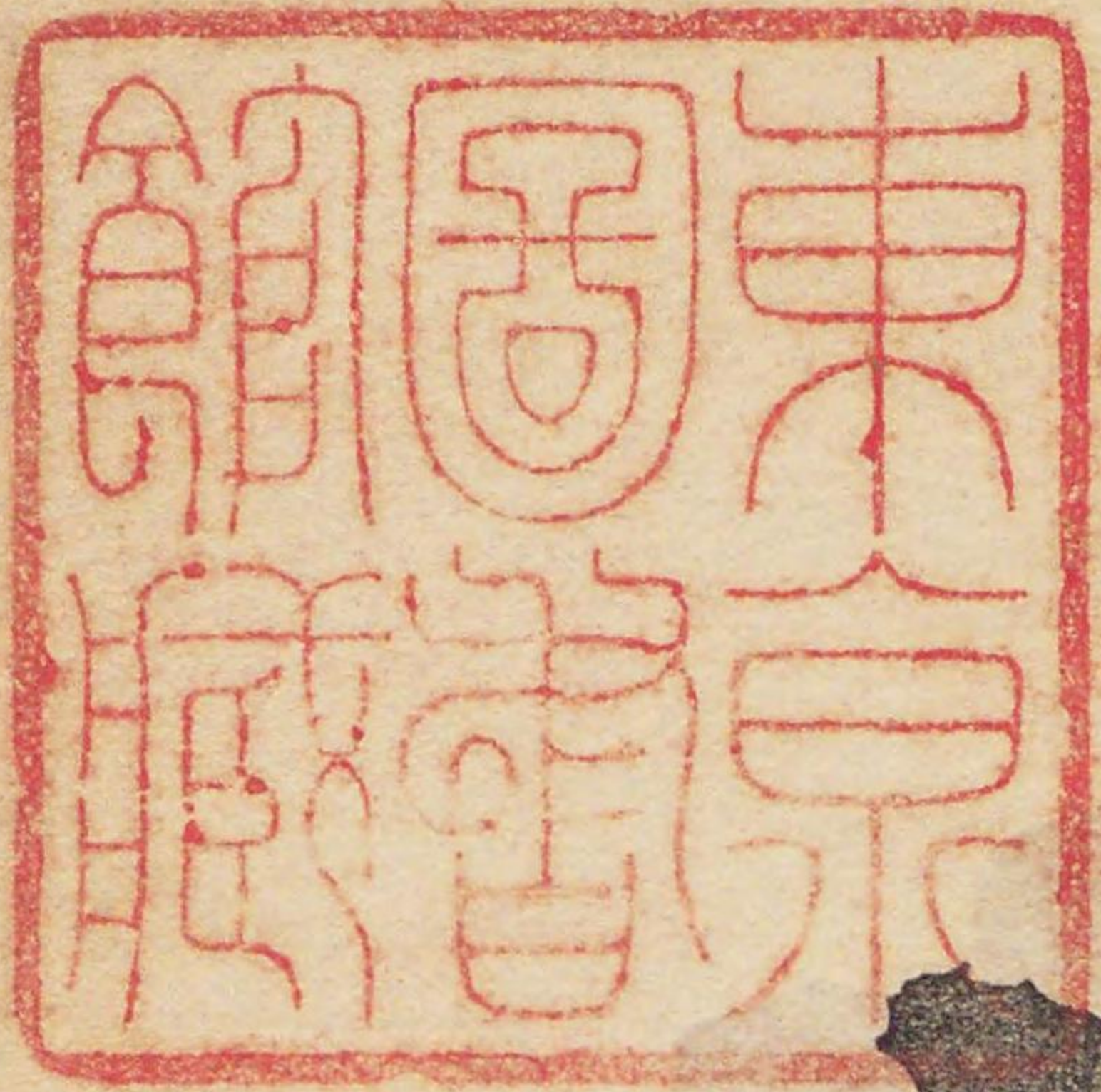


佛國コンスタン氏著
日本大塚成吉譯

宰相責任論
完

東京 潛心堂發行





大正

室林青士齋

日本大塚如吉齋
書

九

五

子

明治十六年二月

北洲仲造書



其制度古云夷狄有君信
其信然 明治十六年一
月安其洲仲道識 重其責
土轉一人半類聞書四卷

宰相責任論

目錄

第一章

責任ノ義解ヲ確定ス

第二章

宰相責任ニ關スル憲法ノ規則

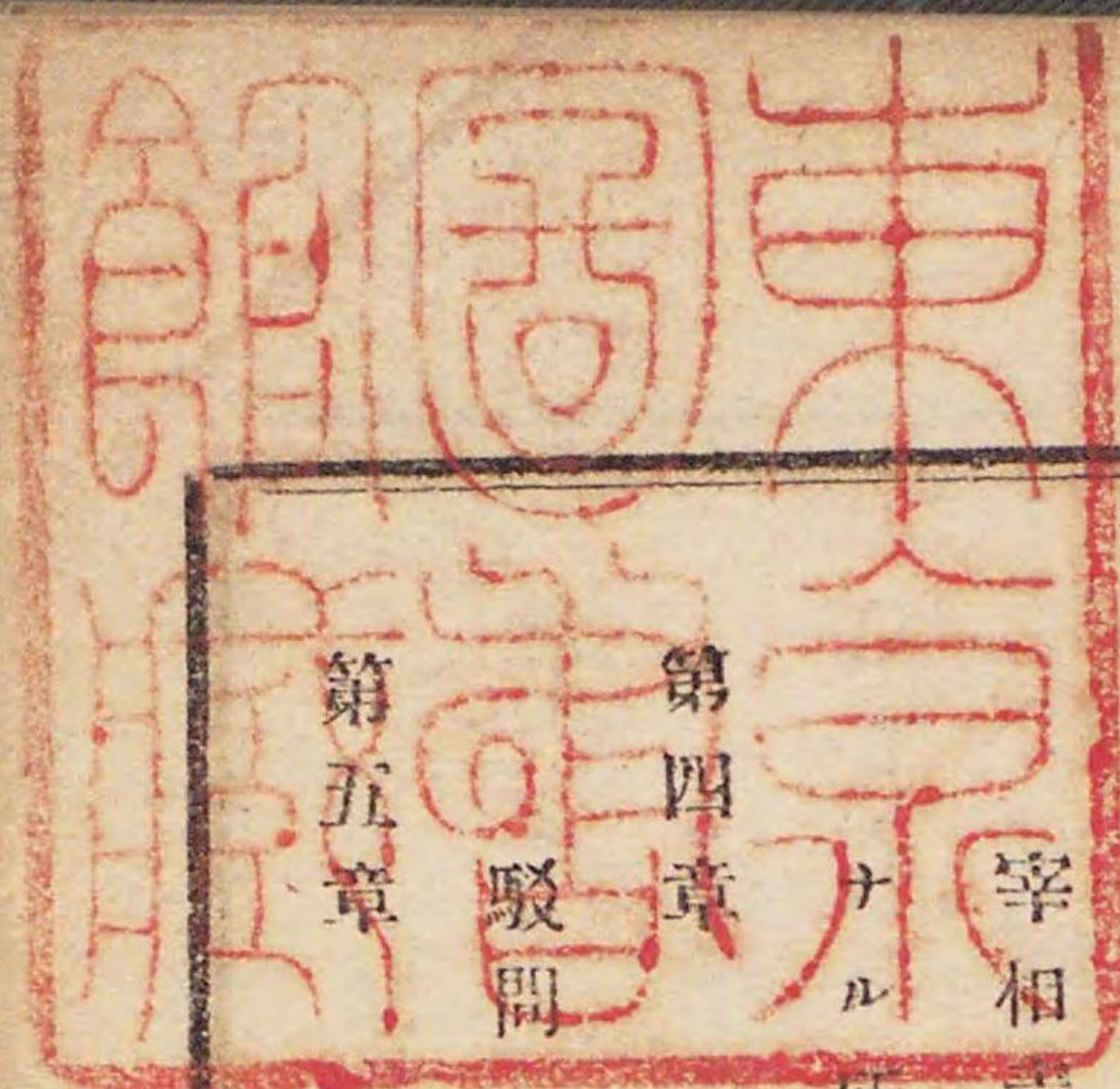
第三章

宰相責任ノ本義ヲ確定スルハ屬官ニ對スル處分ヲ爲スニ有益ナル所以ヲ論ズ

第四章

駁問ニ答フ

第五章



千八百十四年議院ニテ提出シタル説

第六章

通常ノ責任ノヲ

第七章

宰相ハ不徳ニシテ公ケノ信任ヲ受クヘカラスト公言スルヲ

第八章

宰相ヲ裁判スヘキ裁判所

第九章

宰相ニ對シテ訴訟ヲ起スヲ及ヒ其訴訟ノ辨論ヲ公ケニスルヲ

第十章

訴訟手續

第十一章

宰相ニ言渡スヘキ刑罰

第十二章

帝王ノ特赦權ハ制限ヲ加ヘテ刑罰ヲ受ケシ宰相ニ及ボスヘカ
ラスト定ム可キ乎

第十三章

責任ノ效果ニ關シテ前數章ニ論定シタル所ノ結局ヲ論ス

第十四章

人身自由論

宰相責任論

佛國ハンジヤマンコンスタン著

日本 大塚成吉譯

第一章 責任ノ義解ヲ確定ス

宰相ニ責任ヲ負ハシムルハ立憲君主政治ノ缺クヘカラサル要件ニシ
テ君主ヲ靜寧ノ地位ニ奉戴シ其ヲシテ政府ノ動搖ニ觸ル、トナカラ
シムルノ効アルヘシ行政權即チ宰相ノ權ト王權ノ區別モ之ニ因テ判
然シ王權ハ中立ノ準備權トナリ常ニ靜寧ナルヲ得テ實權ノ抵觸スル
時ハ之ヲ和ラケ其勢ヲ挫折シテ國安ヲ保護シ其因ヲ除去シテ政務ヲ
運轉セシムヘキナリ

然レモ其責任トハ何ソヤ其範圍ハ如何ナルヤ其限界ハ何レニ在ルヤ
其効力ハ如何ナル犯罪ニ及ンテ如何ナル犯罪ニ及ハサルカ

其責任ハ不法ノ所爲即チ法律ノ附與セサル權限ヲ押領シテ之ヲ執行
スル所爲ニ係ルヘキヤ將タ又法律ノ附與スル權限ヲ誤用シ及ヒ其允
許スル事件ヲ執行スル所爲ノミニ係ルヘキヤ
若シ其責任ヲシテ不法ノ所爲ニ係ルヘシトセハ宰相ノ私犯罪モ渾テ
其範圍内ニ在リ爲シ其人ヲ殺シ婦女ヲ略取シ又ハ其他ノ犯罪ヲ行
ヒタル時モ省務ニ關係アルト否トヲ問ハス代議院ニテ其公訴ヲ行ハ
サルヘカラス是レ不理ニ過キ我輩ノ採用スル能ハサル所ナリ
又其責任ヲシテ法律ノ允許スル權限ヲ誤用シタル所爲ノミニ係ルヘ
シトスルモ佛國ニ於テハ其範圍内ニ入ルト爲スヘキ私犯罪夥多アリ
テ其犯罪ニ付テハ宰相ト雖モ尙ホ國人ト區別スルヲ得ス
省務ニ關セサル事件ニ付テハ宰相ハ責任ヲ有セスシテ他ノ國人ノ如
ク司法權ノ管轄ヲ受ケサルヘカラス是レ不法ノ所爲ニ付テハ司法權

ヲ以テ之ヲ管轄スヘシト爲スノ謂ナリ何トナレハ省務ハ法律ノ附與
スル權限内ニ存スルヲ以テ不法ノ所爲ハ皆法律ニ關セサルモノナレ
ハナリ我輩ハ英國ニ於テハ宰相ノ責任ノ此ノ如クナルヲ證明シ其例
ヲ示サンカ爲メ我輩ノ熟知スル英國憲法ノ一部タル人身保護律ヲ舉
ケント欲ス
人身保護律ヲ停止セサル時ニ當リ英國人民ノ自由ヲ害スル所爲ヲ行
ヒシ者ハ宰相ナリト雖モ宰相トシテ責任ヲ有セサルヲ以テ代議人ヨ
リ攻撃ヲ受クルトナク唯法律ノ罪人トナリ通常裁判所ノ管轄ヲ受ケ
被害者若クハ其代權人之ヲ此ニ呼出サシムルヲ得ヘシ然レモ人身保
護律ヲ停止シタル時ニ當テ人民ノ自由ヲ害シタル宰相ハ通常裁判所
ノ管轄ヲ受ケテ被害者ヨリ告訴セラルトアルヘカラス何トナレハ
其所爲法律ノ附與スル權限ヲ執行シタルニ過キサレハナリ蓋シ此時

ニ於テハ宰相ハ人民ノ代議士ニ對シテ人民ノ附與スル法律上ノ權限ヲ執行シタルノ責ニ任スヘキノニ代議院宰相ノ行ヲ所シ以テ有害若クハ無益ナリト見認ムルニ於テハ其權限ヲ使用シタル所以ヲ責問シ以テ之ニ訴ヲ起スヲ得ヘシ

千七百六十三年英國ノ宰相ウヰイルケス氏ニ不正ノ所爲ヲ加フルテ許シタル時氏ハ其宰相ト屬官ヲ裁判所ニ呼出シテ鉅額ノ罰金ノ言渡ヲ受ケシメタリ然ルニ此時ニ於テ宰相責任ノ一ニ關シテ辨論アリタルヲ見ス又代議院ヨリ公訴ヲ起シ元老院ニテ裁判ヲ爲シタルヲ聞カサルナリウヰイルケス氏ノ訴フル所宰相ヲ指シテ法律上ノ權限ヲ誤用シタリト云フニ非ス法律ノ許サ、ル不正ノ暴行ヲ加ヘタリト云フニ止マルカ故ナリ是ヲ以テ裁判所ハ宰相ノ加ヘシ專擅ノ所爲ヲ私犯罪ト爲シ宰相ヲ平人ナリト見做シテ其罪ヲ處分シタリ

之ニ反シテ人身保護律ヲ停止スル間ハ宰相ヨリ擅ニ逮捕監禁セラレタリト訴ヘントスル者ハ裁判所ニ訴ヘシテ上院ニ元老院訴ヘサルヲ得ス人ヲ逮捕監禁スルハ法律ノ許ス所ニシテ不正ノ暴行ヲ加フルノ所爲ニ非ス法律ノ權限ヲ執行シタルノ所爲ナリ此所爲ノ正邪ハ他ノ方式ニ從ヒ他ノ裁判官ニ訴ヘテ之ヲ決定スルヲ要ス

ウヰイルケス氏ノ事件ニ於テハ宰相ハ法律ヲ犯シタルヲ以テ通常犯罪人ノ如ク通常裁判所ノ管轄ヲ受ケタリシカ此時其所爲ノ法律ニ適スルヲ證明スルヲ得ハ唯公ケノ官吏トシテ責任ヲ負フニ過キサレヘシ

此區別ハ責任ナル語ニ照スモ亦明ナリ予或人ニ我財產ノ管理ヲ委任ス此人予ノ意志ト利益トニ反スル事柄ヲ行ヒ以テ予ノ信任ニ背ケハ彼レ予ニ對シ責任アリト謂フヘシ然レモ若シ此人ニシテ予ノ委託シ

タル金匣ヲ開キ貨幣ヲ竊取シテ逃亡シタリトセヨ是レ我財産ニ對スル罪ヲ犯シタルナリ人恐クハ此人ヲ指シテ予ノ委任者トシテ責任アリト謂フナカルヘシ第一ノ場合ニ在テハ彼レ予ノ附與シタル權限内ノ事務ヲ濫用シ責任ヲ負フノミ第二ノ場合ニ在テハ予ノ許可セサル事ヲ行フタルナリ一ハ責任ヲ負フニ止マリ一ハ罪ヲ犯スノ所爲トス其混スヘカラサルヲ以テ知ルヘキナリ

〔附言〕ラブーレー氏曰ク宰相ノ所爲ニ就テ治政上ノ責任ヲ生スルモノト刑法上ノ責任若クハ民法上ノ責任ヲ生スルモノトヲ此ノ如クニ區別スルハ人民ノ自由ヲ保護スルニ必要ナル制度ニシテ英國ニテ自由ノ鞏固ナル所以ト我邦ニテ其鞏固ナラサル所以トヲ説明スルニ足ルヘシ政府ノ壓制ヲ行ヒ宰相ノ權限ヲ踰越シ又ハ其擅ニ國人ヲ拘留スル時ハ我輩ハ何ヲ以テ之ニ應スヘキ乎幸ヒニ演說所ア

ツテ宰相ヲ責問スルノ自由アル時ハ此ニ登テ之ヲ責問スルヲ得ヘク又幸ニシテ出版ノ自由ナル時モ文書ヲ刊行シテ之ヲ公告スルヲ得ヘシト雖モ公權ヲ有スル者ハ此障礙物ヲ除クノ外事意ノ如クナラサルハナシ然ルニ英國ニテハ正理常ニ行ハバ苟モ不法ノ所爲ヲ受クルニ於テハ時ノ如何ヲ問ハス場合ノ如何ニ關セス常ニ告訴シテ裁判所ニ宰相又ハ其屬吏ヲ裁判セシムルヲ得ヘシ此ノ如ク宰相ニ責任ヲ負ハシムルハ自由ヲ鞏固ニスル無比ノ制度ニシテ此制度アル國ニ於テハ政治上ノ責任ヲ引證スルカ如キハ却テ稀ナリ宰相ニシテ人ヨリ法律ヲ遵奉スヘシトノ訴ヲ受クルノ畏アラハ之ヲ犯シテ一國ノ怨ヲ招クヲ顧ミサルヲナキヤ蓋シ照々タリ

第二章 宰相責任ニ關スル憲法ノ規則

憲法ニ曰宰相ニ瀆職及ヒ亂財ノ所爲アルニ非スンハ代議院ヨリ之ニ

對シテ訴ヲ起スヘカラスト夫レ瀆職トハ軍事及ヒ外事ヲ指揮スルノ道ヲ誤マリ裁判官陪審官ノ獨立ヲ害スヘキ司法ノ方式其他渾テ國家ヲ害スル百般ノ處分ヲ包含シ亂財トハ公財ヲ使用スルノ道ヲ誤マルヲ云フモノニシテ俱ニ責任ノ範圍内ニ入ルヘキ犯罪ナリ宰相ノ宰相タル分限ニテ行フテ得ヘキハ此ニ種ノ犯罪アルヘシ不法ノ所爲ニ至テハ宰相ハ法律ヨリ之ヲ行フノ權ヲ得サルヲ以テ宰相トシテ之ヲ行フテ得ス而シテ其之ヲ行フ時ハ私犯罪人ナリトシテ平人ヲ以テ論セサルヘカラスト

憲法ニテ宰相ニ瀆職又ハ亂財ノ所爲アルニ非スンバ代議院ヨリ之ニ對シテ訴ヲ起スヲ得ヌト定メタルハ宰相ノ他ノ罪ヲ犯ス時ハ被害者ヨリ之ヲ通常裁判所ニ訴フルヲ得ヘシトノ意ヲ表センカ爲メナルヲ論テ侯タス〔一〕其反對說ノ如キハ論理錯雜ニシテ却テ其非ヲ表明スル

ニ足ルノミ

〔一〕憲法第五十五條及ヒ第六十條ヲ他ノ意義ニ解スルハ抑モ爲シ能ハサル所ナリ第五十五條ニ曰ク代議院ハ宰相ニ對シテ公訴ヲ起シ之ヲ元老院ニ呼出スノ權アリ但シ宰相ヲ裁判スルハ元老院ニ限ルヘシト第五十六條ニ曰ク宰相ニ瀆職及ヒ亂財ノ所爲アルニ非スンハ之ニ對シテ公訴ヲ起スヲ得スト若シ此ニ箇條ヲ推シ議院ノ外宰相ニ對シテ公訴ヲ起スヲ得サルハ猶ホ瀆職又ハ亂財ノ所爲アリトセスンハ之ニ對シテ公訴ヲ起スヲ得サルカ如シト論スヘシトセハ他ノ犯罪ニ付テハ渾テ宰相ニ對シテ公訴ヲ起スヲ得スト決セサルヘカラスト天下焉ソ此理アラシヤ

宰相ハ情慾ニ蔽ハレ又ハ憤怒ニ堪ヘスシテ婦女ヲ略取シ又ハ人ヲ故殺マルカ如キトアルモ瀆職又ハ亂財ノ所爲ニ付テノ外宰相ヲ訴フル

ヲ得ストアル憲法ヲ憑據ト爲シ以テ宰相ニ婦女ヲ略取シ又ハ人ヲ故
殺シタルノ罪アリトシテ之ニ公訴ヲ起スヲ得スト論スルヲ得ヘキ乎
焉ソ其レ然ラソ憲法ノ制定者ハ此時ニ於テハ犯罪人宰相タルノ分限
ヲ以テ事ヲ行ヒシニ非サレハ特別ノ手續ニ因リ宰相トシテ之ニ公訴
ヲ起スヘカラス普通法律ヲ犯シタル者トシテ普通法律ニ從ヒ普通ノ
手續ニ因リ通常裁判所ニ公訴ヲ起スヘシト定メタルナリ
法律ノ罰スル罪多クシテ獨リ婦女ヲ略取シ人ヲ故殺スルノミニ止マ
ラサルカ故ニ宰相ニシテ擅ニ國人ノ自由又ハ所有權ヲ害スル所爲ヲ
行フ時モ是レ皆宰相トシテ之ヲ行ヒシニ非スト爲サ、ルヘカラス何
トナレハ擅ニ國人ノ自由又ハ所有權ヲ害スルハ其權限ノ容サ、ル所
ナレハナリ但シ若干ノ場合ニ於テハ宰相ニ之ヲ許スヘキトナキニ非
ス例ヘハ英國ニテ人身保護律ヲ停止シタル時ノ如シ然ル時宰相ハ之

ト

ヲ行フノ道ヲ誤マルニ於テハ其効果ニ付テ責任ヲ負ハサルヲ得スト
雖モ其自由ヲ害セシ所爲ノ不法ナル時ハ通常犯罪人ノ列ニ入り平人
トシテ處分ヲ受ケサルヲ得ス
人身自由ヲ害スルハ各人ノ行ヒ得ル所爲ニシテ宰相ノ獨リ行ヒ得ル
モノニ非ス予ト雖モ從者四人ヲ携ヘ路傍ニ潜伏シテ敵人ノ來ルヲ待
チ之ヲ執ヘテ竊ニ幽閉スルヲ得ヘシ宰相モ法律ノ允許ヲ得スシテ國
人ヲ略取セシムレハ是レ予ト同一ノ罪ヲ犯シタルナリ宰相タルノ分
限ハ其所爲ニ關セテ固ヨリ之カ性質ヲ變スルノ効ナシ蓋シ宰相タル
ノ分限ハ法律ヲ蔑視シ其明文ニ背反シテ國人ヲ監禁スルノ權ヲ生セ
サルヲ以テ其犯シタル罪ハ婦女ヲ略取シ人ヲ故殺シタル罪及ヒ其他
ノ私犯罪ト同列ニ入ルヘキモノトス
宰相ハ法律上威權アルヲ以テ不法ノ所爲ヲ行フト固ヨリ容易ナリト

雖其威權ヲ用ユルハ重ネテ罪ヲ増スニ外ナラズ是レ猶ホ平人ノ宰相ニ任セラレタリト偽テ屬吏ニ加擔セシムルカ如シ此人ハ宰相ナリト詐稱シテ己レノ有セサルノ權利ヲ行ヒ不法ノ所爲ヲ命スル宰相モ法律ノ附與セサル權利アリト唱ヘテ擅ニ之ヲ行フハ事異ナルモ其理ハ則チ一ナリ

憲法ハ各人ニ其權利ヲ執行シ身命ヲ防衛セシムルモノニシテ獨リ代議院ニ其保護ヲ委任シタルニ非ス若シ然ラズシテ代議院ノミニ其保護ヲ委任シタリトセハ是レ國人ノ自由及ヒ安寧ヲ舉ゲテ代議院ニ任シ其懈怠ニ泥ミ賄賂ヲ貪リ若クハ他ニ籠絡セラレテ之ヲ保護セサルコアルモ國人チソ奈何トモスルコト能ハサラシムルニ異ナラス此ノ如クナレハ社會ヲ組成スル目的ト爲スヘキ此自由安寧ノ二種ノ無双ナル幸福モ行政權ト代議權ト聯合シテ容易ニ之ヲ沮遏スルヲ得ヘキカ

故ニ其危キヲ累卵ノ如ク人民タル者一日モ其心ヲ安スルコト能ハサルナリ

宰相ノ自由ヲ害スル所爲ヲ行ヒシ時其害ヲ受ケタル國人ニシテ之ヲ鳴ラスヲ肯セサルコトアルモ代議士ハ之ヲ訴フルノ權利義務ヲ有スルヤ固ヨリ明ナリ然レモ此時ニ於テ之ヲ鳴ラス者ハ大抵演說場ニ顯ハル、ノミニシテ犯罪人タル宰相ハ元老院ニテ公訴ヲ受クルニ至ラズ唯其效ハ一方ニハ壓制ヲ蒙リシ者ニ世人ノ保護スル旨ヲ告ケ又一方ニハ靜謐ヲ保護スヘキ職務ヲ有スル法官ニ之ヲ害セシ大罪人ヲ訴フヘキ旨ヲ促スニ過キサルナリ

第三章 宰相責任ノ本義ヲ確定スルハ屬官ニ對スル處分ヲ爲ス

ニ有益ナル所以ヲ論ス

我輩ハ前章ニテ宰相責任ノ本義ヲ確定シタルヨリ今日迄得テ解釋ス

ヘカラサル一問題ヲ解釋スルヲ得ヘシ其一問題トハ屬官モ責任アリトシテ論スヘキ乎ト云フニ在リ責任ノ効力ヲ不法ノ所爲ニ及ホス者ハ心ス之ヲ可決セサルヲ得サルヘシ否ラスンハ人身自由ヲ保護スヘキ制度ヲ舉ゲテ悉ク無効タラシムルモノトス予謂ラク不法ノ命令ヲ下シタル宰相ノミヲ罰シテ之ヲ執行シタル屬吏ヲ罰スヘカラスト定ムレバ損害ノ償ヲ求ルヲ重大事件ノ如クニシ被害者ヲシテ往々之ヲ行フヲ能ハサラシムルニ至ラン是レ猶オ襲撃ヲ受クル者ニ敵人ノ頭首ノミヲ打テ其手ニ觸ルヘカラスト命シ其手ハ器械ニ過キフシテ頭首ニ犯罪ヲ指揮スルノ意志アリト論スカ如シ然レモ若シ不法ノ命令ヲ執行スレバ屬吏ト雖モ必ス罰ヲ科スヘシトシテ責任ノ範圍内ニ存スル事件ニ付テハ渾テ之ヲ訴フルヲ得ヘシト定ムルニ於テハ爲メニ畏懼ノ念ヲ生セシメ以テ政府ノ處分ヲ妨ケ且ツ其事務ヲ澁滯セシム

ノ弊アルヘシ請フ司令官及ヒ士官ニ軍事ニ於テ責任アリ公使ニ其記名スヘキ條約書ニ於テ責任アリトセヨ誰カ應シテ神速ニ軍事ヲ指揮シ條約ヲ結了スルヲ肯ンセンヤ予ノ定メシ區別ハ獨リ能ク此難件ヲ決スルニ足ルヘシ蓋シ真正ノ責任ハ固ヨリ屬吏ニ負ハシムヘカラスト屬吏ノ責任ヲ負フヘキハ命令ノ如何ヲ顧ミスシテ一途ニ之ヲ執行シタル時ニ限ルヘシ安寧自由所有權ヲ害スル所爲ハ犯罪ナルヲ以テ苟モ之ヲ行フ者ハ上官ヨリ命令ヲ受ケタリト云フモ以テ其辭柄ト爲サシムヘカラスト雖モ法律上ノ權利ヲ使用スル所爲ノ善惡ハ獨リ宰相ノ知ル所ニシテ宰相ノミ其責ニ任スルヲ要ス故ニ國人ヲ不法ニ監禁シタル憲兵又ハ士官ハ宰相ヨリ命令ヲ受ケタルヲ辭柄トシテ其罪ヲ遁ルヘカラスト何トナレハ宰相ニハ此命令ヲ下スノ權ヲキチ以テナリ然レモ公使ノ條約書ニ調印シ司令官ノ軍旅ヲ指揮シ兵卒ノ戰ヲ爲ス

カ如キニ至テハ條約ハ不利ニシテ國家ノ面目ヲ汚スモ政府ノ命令ニ
背反セシ所ナクシハ公使ハ其咎ヲ受クヘカラス又宣戰ノ不正不利ナ
ル時モ司令官及ヒ兵卒ハ敢テ之ヲ省ミルニ及ハサルナリ

第四章 駁問ニ答フ

或ハ曰ク子ノ論決スル所唯此難題ニ過キス子ハ屬吏ニ就テ責任ノ有
無ヲ論スルモ何ノ益カ之レアラン屬吏ノ長官ニ順從スル者ヲ罰スル
ヲ得ヘシト定ムルハ政府ノ處分ヲ執行スルニ先シテ屬吏ニ其正否
ヲ驗査スルヲ許スニ異ナラス果シテ然ラハ政府ノ事務ハ常ニ澹滯シ
テ已マシクニ若シ長官ニ順從シテ危キヲアリトセハ政府ハ何處ヨリ
屬吏ヲ取ルヲ得ヘシトスル乎嗚呼子ノ言ノ如クシハ指揮ヲ爲スノ任
アル者ハ其權威ヲ使用スルヲ若シ命令ヲ執行スルノ任アル者モ其職
務ヲ執行スルヲ苦シムニ至ラント

予ハ其答辨ヲ爲スニ當リ先ツ論者ニ告ゲントス曰ク汝若シ政府ノ屬
吏ニ命スルニ事々物々渾テ長官ニ順從スヘシト云ハ、是レ法律ヲ濫
用シ壓制ヲ爲スノ器械ヲ社會ニ散布シ暴虐無道ノ權者ニ自由ニ之ヲ
願使スルヲ得セシメント欲スルモノナリ其害ハ汝ノ唱フル害ト孰レ
カ最モ大ナリトスル乎ト

予ハ本論ニ於テハ上官ニ順從スヘキ普通一般ノ原則ニ遡ラサルヲ得
スト信スルナリ大革命以來官吏ヲ順從セシムルノ利益ヲ喋々稱賛ス
ルヲ實ニ甚シトス曰ク軍隊ニ順從ノ氣風ナクシハ是レ軍隊ナキナリ
行政官ニ從順ノ氣風ナクシハ是レ行政官ナキナリト此說ヲ爲ス者ハ
暴政者ノ薰陶ヲ蒙テ壓制主義ニ醉染スルト雖モサンバルテルミノ役
新教者ヲ鑿ニシヤル、第九世ノ命令ニ順從セスシテ殆ント三百年間
殺シタル役ニシヤル、第九世ノ命令ニ順從セスシテ殆ント三百年間
青史ノ稱賛スル所トナリシ軍隊ノ司令官及ヒ州郡ノ大守ニ至テハ必

ス之ヲ誹毀スルヲナカルヘシ然リト雖是レ予ノ驚愕セサル所ナリ
 論者モ我輩ノ曾テ辛苦經歷シタル事實ヲ目撃シナカラ尙ホ其説ヲ主
 持シテ止マサルハ予ノ竊ニ怪ム所ナリ佛蘭西ノ幾度トナク暴政ヲ蒙
 リシハ屬官ニ順從ノ氣風ナキカ故ニ非ス其今日ニ至ル迄却テ順從ノ
 氣風アリシハ實ニ甚シトス而シテ我邦ニテ屢々禍害ヲ免カレ壓制ヲ
 防キロベスビエール氏ノ暴政府ヲ倒スヲ得タルハ幸ニシテ其順從ノ
 氣風ノ行ハレサリシヲマルニ因ルナリ

我邦ニテ政府ノ大權ヲ掌握スル者ハ唯命是レ從フ順從ナル人ノミチ
 採用スルヲ以テ其權勢ヲ永續スルノ方法ナリト確信シ人知ヲ目シテ
 己レニ抗抵スルノ禍原ニ過キストセリ何ソ其レ思ハサルノ甚シキヤ
 兵卒ノ慢ニ器械トナリテ屢々同國人ヲ銃殺スルアレハ益々軍隊ハ順
 從ナルヲ要スト唱ヘ行政官吏ノ空ニ奮勵シテ屢々被治者ヲ執ヘ之ヲ

苛刻ノ裁判所ニ引致スルアレハ行政官吏ノ事ヲ驗査スルヲ害アリト
 シテ益々其空ニ奮勵スルヲ緊要ナリト稱シ極メテ順從ナル器械ハ他
 ノ容易ニ籠絡スル所トナリテ忽チ其舊主ニ敵對スルヲ察セス事ヲ檢
 査スルノ才知アル者ハ權利ト威力トヲ區別シ政權ノ屬スル人ト之ヲ
 掠奪スル人トヲ混淆セサルヲ顧ミサルハ是レ今日迄乘權者ノ脱スル
 能ハサリシ通患ナリキ

右ノ如ク順從ノ氣風ヲ養生スルヲ緊要ナリトシテ之ヲ極點ニ達セ
 シメントスル者アルモ幸ニシテ上天之ヲ責罰ス彼レ胡爲ソ其目的ヲ
 達スルヲ得ンヤ軍隊ノ紀律ヲ定ムルニモ軍人ヲ順從ナラシムルニ自
 ラ其限界アリ豈ニ人言ノ得テ蔽フ所ナランヤ假令ヒ軍隊ハ器械タラ
 サルヘカラス兵卒ノ精神ハ伍長ノ命スル所ニ在リト喋々スルモ是レ
 皆皮相ノ見解ナルノミ試ニ問ハン兵卒ハ酩酊シタル伍長ノ命アラ

ハ以テ大尉ニ發砲セサルヘカラサル乎何ソ其レ然ラン然ラハ則チ兵卒ハ伍長ノ酩酊シタルト否トヲ辨別セサルヘカラス又大尉伍長ヨリ上位ニ居ルヲチ考察セサルヘカラス兵卒ト雖モ事ヲ辨別検査スルヲ要スルヤ其レ此ノ如シ又試ミニ問ハン大尉ハ大佐ノ命アラハ其一中隊ノ兵士ト共ニ之ヲ奉シテ陸軍卿ヲ逮捕セサルヘカラサル乎何ソ其レ然ラン大尉ノ事ヲ辨別検査スルヲ要スルヤ其レ此ノ如シ又試ミニ問ハン大佐ハ陸軍卿ノ命アラハ神聖ニシテ侵スヘカラサル帝王ノ身体ヲ害セサルヘカラサル乎何ソ此ノ如キ理アラソヤ大佐ノ事ヲ辨別検査スルヲ要スルヤ其レ亦此ノ如シ曾テ巴里ノ中央ノ火藥庫ヲ破烈セシムヘキノ命ヲ受ケ其不正ナルヲ鳴ラシテ之ニ背反スルヲ己ノ本分ナリト公示シタル士官アリシカ當時人皆極メテ之ヲ稱賛シタルニ非スヤ

是ニ由テ之ヲ觀レハ上官ノ命令ト雖モ之ヲ検査セサルヘカラス之ヲ検査スルハ即チ義務ナリ又順從スヘキ器械モ罰スルヲ得ヘク又罰セサルヘカラサルヲアルヘシ

予ノ此ニ論スル所ヲ駁撃スルノ説アリ然ルニ其説ハ却テ予ノ定メントスル原則ノ問題スヘカラサルヲ反證スルニ足ルヘシト思ハルレハ今之ヲ左ニ舉示スルハ無益ニ非スト信スルナリ
 兵卒ハ伍長ノ命令アラハ大尉ニ發砲セサルヘカラサル乎ト云ヘル予ノ問類ニ對シ或人ハ左ノ如ク答辨セリ曰ク兵卒ハ順從ナルヲ要スト云ヘル同一ノ原則ニ因リ伍長ヨリ大尉ヲ尊重セサルヘカラサルヤ固ヨリ明ナリト然レモ予モ兵卒ハ大尉ノ伍長ヨリ上位ニ在ルヲ考察セサルヘカラスト陳述シタレハ或人ハ予ト同一ナル思想ヲ述フルニ過キサルナリ然ルニ其喋々シテ止マサルハ此考察ノ語ア

トテ畏ル、ノ致ス所ナル乎然レモ兵卒ハ均シク指揮ヲ受クヘキ此
二人ノ位階ノ異ナルヲ考察セスンハ如何シテ適從スル所ヲ知ルヘ
シトスル乎其之ヲ尊重スヘキノ輕重ハ其異ナル所ヲ考察セスシテ
如何シテ知ルヲ得ヘシトスル乎

凡ソ兵士ヲ順從ナラシムルハ軍隊ヲ整頓スル緊要ノ基礎ニシテ命令
ヲ奉行セシムルハ行政事務ニ缺クヘカラサル要件ナリト雖モ亦決シ
テ其限界ナシト爲スヘカラス但シ其限界ハ明定スル能ハサルモノト
ス何トナレハ其適當スヘキ百般ノ場合ハ得テ豫定スルコト能ハサレバ
ナリ然レモ凡ソ事ヲ執ル者其遭フ所ニ就テ考フレハ其限界ト雖モ亦
覺知スルヲ得サルニ非ス唯之ヲ誤認セシ時其責ニ任シテ罰ヲ受ケサ
ルヲ得サルノミ夫レ然リ然ルモ其罰アルヲ憑據ト爲シ人ハ事ヲ檢査
スヘカラストシテ天與ノ才智ヲ使用スヘカラスト定ムルカ如キハ實ニ

天理ニ悖戻シ人道ヲ紊亂スルノ甚シキモノト謂フヘシ(三)

予ハ凡ソ兵士ヲ順從ナラシムルハ軍隊ヲ整頓スルニ緊要ナリト雖
モ亦決シテ其限界ナキニ非ス唯其限界ハ明定スルヲ得スシテ覺知
スルヲ得ヘキノミナリト云ヘリ然ルニ之ヲ駁スル者アリ曰ク此ノ
如キコトハ稀有ニシテ内心ノ指定スル所ナリ何ソ一般ノ規則ノ妨害
ト爲スニ足ラント此説ノ如キハ一定ノ主義ナキノミナラス語ヲ換
ヘテ云フニ過キサルモノ、ミ内心ハ明定スルヲ得スシテ知覺スル
ヲ得ヘキ限界ト同一ナルニ非スヤ一般ノ規則ハ凡ソト云フト同一
ナラスヤ

(二)佛蘭西ノ現行法律中平人ト軍人トヲ問ハズ不正ノ命令ヲ執行シ
タル者ニハ渾テ刑ヲ科スヘシト定メ軍人モ上官ヨリ受ケシ命令ヲ
法律ト計較スヘキ義務アリト定ムルモノアルコト此ニ注意スルヲ

要ス共和立國第六年シユルミナール月十三日ノ法律第百六十五條
 ニ曰ク上下士官及ヒ警備兵ハ現行犯罪又ハ法律ノ定ムル場合ニ遭
 フニ非スシテ國人ヲ逮捕スル命令狀ヲ下附シ或ハ之ニ記名シ或ハ
 之ヲ執行シ若クハ執行セシメ又ハ單ニ國人ヲ逮捕シテ警察官ニ引
 渡シタル者ハ刑事ノ訴ヲ受ケ擅ニ人ヲ監禁スルノ刑ニ處セラレハ
 シト故ニ士官及ヒ備警兵モ命令ニ順從スル前ニ其拘留スヘキ人ハ
 現行犯ノ場合又ハ法律ノ定ムル場合ニ在ルヤ否ヤヲ考察セサルヘ
 カラス其第百六十六條ニ曰ク拘留所引致所又ハ監獄所ト爲ス爲メ
 法律ニテ公ケニ定メタル場所ノ外ニテ人ヲ監禁スル者モ亦同上ノ
 刑ヲ科スヘシト故ニ士官及ヒ備警兵モ命令ニ順從スル前ニ其逮捕
 シタル人ヲ引致スヘキ場所ハ法律ノ公ケニ定ムル場所ナルヤ否ヤ
 ヲ考察セサルヘカラス其第百六十九條ニ曰ク現行犯ノ場合ヲ除ク

ノ外法律ノ定ムル方式ニ適スル引致狀拘留狀監禁狀公訴狀又ハ刑
 名宣告書ヲ用ユルコト非スノハ何人タリトモ備警兵隊ニ於テ逮捕ス
 ルヲ得スト故ニ士官及ヒ備警兵ハ命令ヲ執行スル前ニ法律ニ適ス
 ル引致狀拘留狀監禁狀公訴狀又ハ刑名宣告書アルヤ否ヤヲ考察セ
 ザルヘカラス是レ皆軍人ト雖モ法律ヲ考察セサルヘカラサル場合
 ナリ而シテ法律ヲ考察スルハ才智ヲ使用セズンハ爲ス能ハサルヘ
 シ

國人ノ法律ニ順從スヘキコトニ關スル重要ノ一般普通ノ規則モ此等ノ
 原則ヨリ推定スルヲ得ヘシト雖モ予ハ本論ニ遠サカルヲ欲セサルナ
 リ
 上官ニ順從シテ答ヲ受クルノ畏アル時ハ固ヨリ屬官ヲシテ疑懼ノ念
 慮ヲ抱カシムルコトナキニ非ス思フニ屬官モ答ヲ受クルノ衝ニ當レン

ヨリ寧ロ木偶人トナリ又ハ犬馬トナツテ使役ニ奔走スルヲ便ト爲ス
ナルヘシ然リト雖モ人事皆疑ハシカラサルハ莫シ若シ疑ヲ避ケント
欲セハ寧ロ人タルナキニ若カサルナリ道理ハ憑據推測及ヒ見込ヨリ
成立シタルモノ、ミ果シテ然ラハ誰カ誤ナキヲ保センヤ又誰カ疑ナ
キヲ得ンヤ是故ニ政体ノ良善ナル社會ニ於テハ疑懼ノ弊ヲ防カンカ
爲メ事ヲ考察セスシテ徒ラニ之ヲ行フ者アリト雖モ其惡意ニ出テサ
ル時ハ其過失ヲ恕シテ之ニ罰ヲ免スルノ藥劑アリ此藥劑ハ國人ト均
シク行政官吏ニ享有セシムヘキモノニシテ陪審裁判即チ是ナリ〔一〕蓋
シ宰相ニ屬シテ其命令ニ順從シ又ハ之ヲ拒絕シタル官吏アル時其舉
動ノ正邪ヲ決スルニハ獨リ成文法ニ照スヘカラス宜シク一般ノ思想
ヲ準トシテ之ヲ決スルヲ要ス而シテ一般ノ思想ヲ表スルハ獨リ陪審
官ナルヲ以テ必ス陪審官ヲ用ヒテ之ヲ決セサルヲ得ス陪審官ヲ用ユ

ルハ此官吏ハ如何ナル趣旨ニテ宰相ノ命令ニ順從シ又ハ之ヲ拒絕ス
ルニ至リタルヤヲ酌量シ以テ其罪ノ有無輕重ヲ判定スル無二ノ方法
ナリトス〔二〕

ラブーレー氏曰ク本書第一版ニハ本項ニ左ノ如キ文詞アリシカ著
者不用ナリトシテ之ヲ削除シタリ是レ至當ナリト雖モ其舉クル所
極メテ適切ナルヲ以テ左ニ之ヲ記ス曰ク總テ精神内ノトニ關スル
錯雜ノ事件ニ就テハ陪審裁判ヲ必要ナリトス例ヘバ出版自由ニ於
ケルカ如シ出版自由ハ陪審裁判ノ制ナクンハ得テ存スル能ハサル
ナリ此ノ如キ書籍ハ此ノ如キ場合ニ於テ犯罪ナルヤ否ヤヲ定ムル
ハ獨リ陪審官ノ能クスル所ナリ成文法ハ細微ノ事情ヲ酌量スル能
ハス之ヲ酌量スルハ一般ノ思想即チ自然ノ良知ニ限ルヘシ然ルニ
一般ノ思想ヲ表スルハ獨リ陪審官ノミト

〔二〕同氏曰ク著者ノ説甚タ當レリ然レモ宰相ハ已レニ順從セサル行
 政官吏アルモ之レニ訴テ起サスシテ直ニ之ニ罷免スヘシ命令ヲ出
 ス宰相ハ其不法ナルト否トヲ問フノ利益ナク且ツ命令ノ不法ナル
 時ハ益々之ヲ執行セシメント欲スルナルヘシ故ニ官吏ハ命令ヲ執
 行シテ咎ヲ受クル確乎タル畏アル時ニ非スハ法律ヲ犯スヲ躊躇
 スルヲナカルヘシ共和立國第八年ノ憲法ハ之ヲ罷免スルヲ許シテ
 之ニ咎ヲ負ハシメサルヨリ官吏ハ常ニ宰相ニ蔽ハレ面シテ宰相ハ
 殆ント攻撃スヘカラサルノ地位ヲ有セリ若シ宰相ト官吏ニ裁判所
 ニ對シテ責任アラシムレハ宰相ハ法律ニ適スル命令ノミヲ下シ官
 吏ハ法律ノミヲ執行スルニ至ルヘキナリ

請フ政府ノ器械ハ陪審官ノ面前ニテ宰相ニ順從セサルノ自由ヲ證明
 セント圖テ之ニ抵抗スルニ至ラント憂フル勿レ屬吏ハ自然ノ勢ニ乘

シ且ツ利益ト自愛心ノ刺激スルアリテ常ニ順從ノ氣風ヲ養生スヘシ
 政府ノ權威其レ此ノ如シ政府ハ官吏ノ順從シテ蒙リタル損害ヲ償フ
 許多ノ秘術アリ陪審官如何ナル處分ヲ行フモ何ノ之ヲ妨クルヲ得ン
 ヤ况ヤ其激烈ノ處分ヲ施シテ甚シク政府ノ官吏ニ不羈獨立ノ氣風ヲ
 興サシメント欲スルヲナカルヘキニ於テヤ凡ソ社會ノ秩序ヲ保全
 スルハ人々ノ希望スル所ナリ公務ヲ行フノ職任アル者ハ品位ト榮譽
 ヲ享有シテ益々之ヲ希望スルノ感覺ヲ起シ敢テ之ヲ假借スルヲ肯ン
 スルヲナカルヘシ故ニ陪審官モ自ラ心中ニテ屬吏ノ上官ニ順從スル
 ノ必要ナルヲ感覺シ常ニ之ヲ獎勵スルノ判決ヲ爲スヘシ
 或ハ余ヲ目シテ陪審官ニ專擅ノ權ヲ與ヘンヲ欲スルモノナリト云
 フヘシ然レモ之ヲ陪審官ニ與フルハ宰相ニ與フルト其害孰レカ少ナ
 リトスルヤ凡ソ人事ハ悉ク規定シ悉ク書記シ以テ人ハ此ノ如クニ生

活シ此ノ如クニ交際スヘシト豫定シ後生ノ人ヲノ將來ニ思慮ヲ旋ラ
 シ才知ヲ費シテ事ヲ考察スルノ勞ナカラシムル能ハス人事ハ果シテ
 臨機ノ處分ヲ要スルトセハ其處分ヲ爲スノ權ハ特權ヲ維持スルノ利
 益アル者ニ與ヘンヨリ寧ロ自由ヲ愛シ公論ヲ重ニスルノ利益アツテ
 權柄ニ狎レサル當座ノ撰任者陪審官ニ與フルニ若カサルヘキナリ
 予ハ更ニ論者ニ告クルヲアリ屬吏ヲ從順ナラシメントスル汝ノ説ハ
 到底ノ制限セズンバ恐クハ主持スル能ハサルヘシ若シ之ヲ行ハ、汝
 ノ保護セント欲スルモノ悉ク難ニ罹リ自由ヲ危フスルト同時ニ權威
 ナ危ウシ順從スヘキ者ヲ危フスルト同時ニ命令スル者ヲ危フシ人民
 ナ危フスルト同時ニ君主ヲ危フスヘシ
 又命令ニ順從シテ本分ヲ破リ罪ヲ犯スニ至ルヘキ場合モ汝ノ明確ニ
 指示スル能ハサル所ナルヘシ憲法ニ反スル命令ノミ獨リ行フヘカラ

スト云ハント欲スルカ憲法ニ反スルモノモ之ヲ驗査セスシテ其然ル
 ヤ否ヤヲ知ル能ハス之ヲ驗査セサラント欲スルハストリジリーヌノ
 宮殿ヲ出テントスルカ如シ其宮殿ハ出テントスルモ絶ヘス其中ニ返
 ラサルヲ得テ憲法ニ反スル命令ハ驗査セサラントスルモ絶ヘス驗査
 セサルヲ得テ今之ニ驗査スヘキハ何人ナリト定ムヘキヤト問ハンニ
 論者モ恐クハ命令ヲ出シタル者ニ之ヲ驗査セシメント欲スルヲナカ
 ルヘシ然ラハ則チ事アル毎ニ之ヲ決スルノ方法ヲ設ケサルヘカラス
 其方法ノ最良ナルモノハ極メテ公平無私ニシテ公益ヲ重ニスル人ニ
 之ヲ決スルノ權ヲ授クルニ在ルヘシ此人ハ他ニ非ス陪審官是ナリ
 英國ニ於テハ官吏ノ責任ハ予ノ解スル如キ意義ニテ最下等ノ官吏ヨ
 リ最上等ノ官吏ニ至ル迄能ク之ヲ知リ毫モ疑ヲ容ル、トナシ請フ頗
 ル奇珍ノ事實ヲ舉ケテ之ヲ證セン此事實ハ官吏ノ責任ノ原則ヲ引證

スヘカヲサル場合ニ際シテ之ヲ引證シタリシカ之ヲ引證スヘキ場合
 ヲ却テ明ラナラシムルモノトス
 ウワイルケス氏カ選舉法ノ執行ヲ非ナリトシテ訴ヲ起シタル時倫敦
 府ノ裁判官某ハ下院若干ノ決議ハ其權限外ノ決議ナリト思惟シ英國
 ニ於テハ正當ノ下院ナシト爲シ不當ノ官廳ヨリ出テタル法律ニ租稅
 ヲ拂フベシトアルモ敢テ之ヲ拂フノ義務ナシト公言シ乃チ租稅ノ仕
 拂ヲ拒絕シ收稅官吏ヨリ動産差押ヲ受クルニ當テ之ニ家屋ヲ侵シ財
 産ヲ横收シタルノ罪アリトシテ訴ヲ起シタリ裁判所ノ此訴ヲ審理ス
 ルヤ收稅官吏ノ名義ニ取リシ官權ノ不法ナル上ハ固ヨリ之ヲ罰スル
 ヲ得ヘシトシテ毫モ其間ニ疑ヲ容ル、トナク唯下院ハ正當ノ性質ヲ
 失ハサル旨ヲ陪審官ニ證セントセリ故ニ收稅委員ハ不法ノ命令又ハ
 不法ノ官廳ヨリ發シタル命令ヲ執行シタリト判決セラル、時ハ大藏

卿ノ隨意ニ黜免スルヲ得ヘキ器械ナリト雖モ其罰ラレシヤ論ヲ俟タ
 サルナリ

予ハ同一ノ事件ニ關スル事實中ニテ最モ肝要ナル他ノ事實ヲ舉示
 スヘシウイルケス氏ヲ攻撃シタル宰相其屬吏ヲシテ四名ノ士卒ト
 氏ノ所有セル書類ヲ差押ヘ更ニ其徒黨トシテ六名ノ人ヲ逮捕セシ
 メタリシカ其屬吏ハ氏ニ訴ヘラレ一私人トシテ自己ノ名前ニテチ
 リープルステルリンク 銀貨五千ノ償金ヲ拂フヘキノ裁判官渡ヲ受
ケ續テ其四名ノ士卒モ逮捕セラレシ六名ノ人ノ訴フル所トナリニ
チリーブルステルリンクノ罰金ヲ科セラレタリ佛國ニ於テモ人身
自由ヲ害スル命令ヲ執行シタル備警兵獄卒又ハ收稅事務ノ一ニ關
シ不法ノ命令ヲ執行シタル收稅吏ノ如ク渾テ不法ノ命令ヲ執行シ
タル者ヲ罰スル同種ノ法律アリ是レ予カ前文ノ附言ニテ説明シタ

ル所ナリ予ニ向テ反對説ヲ唱ヘシ者ハ實ニ我法律ニ反對シ之ニ執
 行力アルト其日毎ニ行ハル、トテ顧慮セサルモノト謂フヘシ
 第五章 千八百十四年代議院ニテ提出シタル説
 我代議院ハ國人ニ對スル罪ヲ犯シタル宰相及ヒ其屬吏ニハ民事ノ訴
 ノ外起スヘカラスト定メ更ニ一步ヲ進メテ民事ノ訴ト雖モ宰相會議
 ヨリ其允許ヲ出ス時ニ非スンハ之ヲ起スヘカラスト決シタルカ如シ
 予ノ前文ニテ陳述シタル原則ニ據レハ此ノ如キ罪ハ私犯罪ニ過キス
 シテ宰相會議ニ於テハ其性質ト輕重トニ準シテ訴ノ允許スヘキモノ
 ト否トヲ定メザルヘカラスト而シテ宰相自ラ犯罪ニ加ハリ擅ニ人ヲ監禁
 シテ苛刻ノ所爲ヲ施シタル時ノ如キハ其罪頗ル大ナルヲ以テ如何ソ
 民事ノ訴ヲ允許スルノミニシテ可ナランヤ
 此ノ如キ罪ハ多ク屬吏ノ所爲ニ出ツルカ故ニ之ヲ訴ヘ以テ刑罰ヲ加

フルモ固ヨリ政府ノ活動ヲ障礙スルニ至ラス備警兵罪ヲ犯シテ訴ヲ
 受クルモ他ノ備警兵アツテ其職務ヲ行フヘシ邏卒長人身自由ヲ害シ
 テ法廷ニ引致セラル、モ他ノ邏卒長アツテ公安ヲ保護スヘシ然ラハ
 則チ官吏ニ對シ如何ナル訴ヲ起スヲ許スモ其結果ハ之ヲ警戒シテ法
 律ヲ犯サルノ注意ヲ厚ウセシメ政府ノ機關ヲ保護シテ進退規矩ア
 ラシムルニ外ナラス嗚呼宰相自ラ人道ヲ破リ正理ヲ害スル所爲ヲ行
 ハシムル時例ヘハ前世紀ノ半ハ頃隣國ニテ壓制雄略ヲ以テ世ニ雷鳴
 シタルカ如キ宰相アリテ其憎ム所ノ囚人ニ仇ヲ報センカ爲メ氷塊ヲ
 獄舎ニ充滿セシメ以テ徐々其生命ヲ絶ツカ如キヲアル時ニ於テハ誰
 カ民事ノ訴ヲ許スヲ以テ充分ナリト爲サンヤ
 予ハ英國ノ法律ニ極メテ熟達セル英人ニ問フニウヰイルケス氏ノ宰
 相ニ對シテ起シタル訴訟ノ性質如何ヲ以テセリ答ヘテ曰ク同氏ノ起

シタル訴訟ハ官吏ノ所爲ノ不法ナルヲ示スノミニシテ宰相又ハ其屬
 吏ノ心意ヲ問ハサルカ故ニ純粹ナル民事ノ訴ナリト爲サ、ルヲ得ス
 然レモ若シ其心意ヲ攻撃シテ罪アリトスレハ刑事ノ訴起ルヘキナリ
 ト
 ラブレー氏曰ク一般ノ規則ニ於テハ損害ヲ受ケタル國人ニハ民事
 ノ訴ヲ許スノミニテ可ナリ唯緊要ナルハ辨論及ヒ告訴ヲ公ケニス
 ルニ在ルノミ一タヒ罪ノ公衆ニ發覺スルモノアレハ公訴ノ起ルヘ
 キ日ヲ期シテ待ツヘシ我法律ハ國人ニ直接ニ公訴ヲ起スノ權ヲ附
 與セスシテ告訴ヲ爲スノ權アラシム然レモ告訴ヲ爲スハ無益ニシ
 テ徒ニ行政官ノ任免スルヲ得ヘキ怯懦ノ法官檢察官ニ公訴ヲ委ヌ
 ルニ過キス民事ノ訴ハ之ニ反シテ終身官タル法官ト公衆ノ面前ト
 ニ直接ニ訴訟事件ヲ出スヲ以テ或ハ著大ノ權利ニ非サルヘキカ如

シト雖モ實際ニ於テハ最モ確乎タル効能アル權利ナリト
 官吏ヲ訴フルニ付テハ政府ノ允許ヲ要スヘシト云フコ至テハ牽強附
 會實ニ是ヨリ甚シキハナシ予ハ千思万考スルモ殆ント之ヲ容ル、ノ
 理ナキニ苦シム、此說ハ共和立國第八年ノ憲法ノ採用シタル所ニ
 シテ其行ハル、間ハ屢々償金請求ノ訴ヲ允許セスシテ最モ嫌惡スヘ
 キ大罪人ノ法網ヲ脱スルヲ見タリ
 或ル代議士ハ私犯罪ノトニ關シ國人ヨリ宰相ニ對シテ起シタル訴訟
 ハ通常裁判所ニテ判決セシムヘカラスト唱ヘ其憑據トシテ代ル々々
 二種ノ理由ヲ指示シタリ一曰ク裁判所ハ威權アル人ニ對シテ其不利
 トナル言渡ヲ爲スヲ畏ルヘシ二曰ク裁判所ニ國家ノ秘密ヲ預リ知ラ
 シムヘカラスト此說ハ舊時ノ思想ニ基クモノニシテ畢竟國安ヲ保護
 スルハ專擅ノ所爲ヲ要スヘシト云ヘル說ノ未流ナリ思フニ專擅ノ所

爲ハ素ヨリ法律ニ適合セサルヲ以テ法律ニテ其正當ナルヲ證明スル能ハサルヨリ之ヲ秘スルヲ緊要ナリト爲スナルヘシ論者ノ如キハ宰相ノ不法ニ國人ヲ逮捕監禁セシムル時ハ其辨護ヲ爲ス爲メ唯之ヲ秘密ノ事件ト爲シ他人ヲシテ之ヲ知ラシムヘカラスト述ヘ之ヲ知ラシムルハ國安ヲ害スルノ原因ナリト説クナルヘシ予ノ見ル所ヲ以テスルニ國安ハ人身自由ノ保證セシテ維持スル能ハス國人ハ官權ヲ目スルニ保護者ヲ以テセスシテ兇惡者ヲ以テセハ國安ノ害セラル、是ヨリ甚シキハ莫シ專擅ハ國安ノ大敵ニシテ其跡ヲ緝晦スレハ其害ヲ爲スト益々大ナリ凡ソ國安ハ正理ニ存シ正理ハ法律ニ基キ法律ハ程式ニ行ハル一人ノ自由ハ社會ノ全体ニ係ル正當ノ裁判官ニ非スノハ焉ソソ之ヲ滅殺スル所爲ヲ行フテ許スヘケンヤ政治ノ重要ニシテ動スヘカラサル目的ハ即チ是ナリ而シテ憲法ハ此目的ヲ達スルノ外他

ニ正當ヲ致スノ道ナキヲ以テ如何ソ他ニ其基礎ヲ定メテ之ヲ保全スルヲ得ンヤ

裁判所ハ權力微弱ニシテ犯人ヲ制スルニ足ラサルヘシト唱フルカ如キハ革命ノ際裁判官ヲ行政官ニ從屬セシメ以テ之ヲ疑懼セシメタリシ時ト同一ノ思想ヲ抱クニ因レリ當時騷亂相續キ亂黨交々起リ各々私怨ヲ抱キ禍心ヲ包藏シタルヨリ其中間ニ生シタル政府モ絶ヘス政權ヲ犯サレ利益ヲ害セラル、ノ畏アリシカ故ニ獨立ノ裁判所ヲ設立シテ不羈ノ權力ヲ與フルヲ得サリシナリ然レモ今ハ幸ニシテ此ノ如キ制度漸ク地ヲ掃フニ及ヘリ切ニ信ス我裁判所ハ將來政府ノ崇尊セラル、ト同時ニ官吏ニ對シテ愈々權力ヲ鞏固ナラシムルニ至ルヘシ曩キニ拿破烈翁ノ權力ヲ逞ウスルニ當テヤ宰相ト通謀シタルノミナラス警察官及ヒ探偵吏ト通謀シテ共ニ權力ヲ維持シ之ヲ四方ニ散布

シテ己レノ眩股爪牙ト爲シ國民ヲ駕御スルニ暴行脅迫ヲ以テシ政令
ヲ執行スルニ權謀術數ヲ以テシタリシカ現今ノ政府ハ上天ノ加護ニ
因テ幸ニ性質ヲ異ニシ基礎ヲ同ウセス其政ヲ行フ方法ノ異ナルヲ推
テ知ルヘキノミ蓋シ憲法ハ君主ヲ神聖トシテ惡事ヲ爲ス能ハサル至
尊ノ位地ニ奉ス其官吏ノ罪惡ヲ分擔シテ之ヲ庇護スルノ益ナキヤ明
ナリ故ニ裁判所ハ官吏ノ罪惡ヲ糾治スト雖モ憲法ヲ破ラレテ危ニ近
ツクノ虞ナシ而シテ裁判官モ將來益々剛毅ノ氣象ヲ生シ公明ノ義心
ヲ興シ温良ノ風儀ヲ有スルニ至ルニキヤ論ヲ俟タサルナリ
宰相ノ自由ヲ害スル所爲ヲ行ヒシ時其害ヲ受ケタル國人ニシテ其罪
ヲ鳴スチ肯ンセサルヲアルニ於テハ人民ノ代議士ハ宰相ニ對シテ其
罪ヲ鳴スノ權利義務ヲ有セサルヘカラス此ノ如クナレハ國人ハ損害
ノ償金ヲ請求スルヲ得ヘキノミナラス代議士ヨリモ之ヲ保護スルノ

處分ヲ爲スチ得ヘクシテ自由ハ始メテ鞏固ナルヲ得ヘシ唯宰相ハ動
モスレハ私怨ヲ受クルヲ以テ通常人ト區別シテ特ニ之ヲ保護スルノ
法律及ヒ程式ヲ定メ自由ヲ保護スル制度ト並ヒ行ハシムルヲ要スヘ
シ但シ宰相ノ不法ノ所爲中單ニ公益ヲ危フスルモノ許多アリ此所爲
ニ至テハ代議院ノミ之ヲ鳴スチ得ヘクシテ平人ハ之ヲ訴フルノ權ナ
シト定メ其權限内ノ事務ヲ濫用シタル所爲モ尙ホ代議士ノ外責問ス
ル能ハサルモノト定メサルヘカラス

第六章 眞正ノ責任ノ

責任ニ關スル疑團ハ前ニ述フル所ニ因テ既ニ甚シク氷解シ其第一ノ
困難ナル一點モ亦全ク除去スルヲ得タリ乃チ宰相ノ犯スチ得ヘキ不
法又ハ專擅ノ所爲ハ責任ノ範圍内ニ存セサルヲ明ナルニ至レリ蓋シ
此所爲ハ私犯罪ニシテ平人ノ犯罪ト同一ノ程式ニ從ヒ同一ノ裁判所

ニテ判決スヘキモノナリ而シテ責任ノ係ルヘキハ唯法律ノ附與スル
 權限内ノ事務ヲ濫用シタルノ所爲ナルノミ
 是故ニ不正ノ軍ヲ起シ軍事ヲ指揮スルノ道ヲ誤マリ財政紊亂シ不利
 ノ構和ヲ締結シ司法事務ニ不備又ハ危險ノ程式ヲ加ヘ其他法律上ノ
 權限内ニテ故ナク人民ヲ害シ又ハ國人ヲ損ウカ如キ所爲ヲ行フハ皆
 是レ責任ノ係ルヘキ所ナリ
 責任ノ本義ヲ此ノ如ク解シ來レハ責任ノトニ關シテ詳細ナル確定ノ
 法律ヲ制定スルノ困難ナルハ刑法ヲ制定スルノ比ニ非サルヲ以テ知
 ルヘキノミ其事業ノ中道ニシテ屢々廢絶シタルハ深ク怪シムニ足ラ
 サルナリ
 不利不正ノ軍ヲ起ス事例ハ一々枚舉スルニ逞マアラズ軍事ヲ指揮シ
 條約ヲ締結シ財政ヲ行フニモ之ヲ誤マルト頗ル多シ軍事ヲ指揮スル

ニ付テハ或ハ急速ニ失スルアリ或ハ遲緩ニ過クルアリ或ハ懈怠ニ陷
 イルアリ外交談判ニ於テハ或ハ剛毅ニ過クルアリ或ハ柔弱ニ沈ムア
 リ公ケノ信據ヲ害スルニモ或ハ確定ノ目的ナキ事業ヲ行フトアリ或
 ハ節儉ノ旨意ヲ誤マルトアリ或ハ事ニ托シテ私ヲ計ルトアリ此ノ如
 キ國家ヲ害スル各種ノ方法ヲ一々指示シテ規定セサルヘカラストセ
 ハ責任ノトニ關スル法律ハ史論及ヒ政論ヲ聚集シタルモノトナリ之
 ヲ用ユルモ亦唯既往ノ事例ヲ處分スルニ足ルヘキノミ果シテ然ラハ
 宰相ハ將來新方法ヲ接出シテ容易ニ之ヲ避クルヲ得ヘシ
 是故ニ英人ハ普通法ノ領スル事件ニ就テハ法文ニ固着シテ細密ニ之
 ヲ解剖スルノ風アリト雖モ宰相ノ責任ニ歸スル犯罪ニ至テハ之ヲ指
 示スルニ其性質輕重ヲ確定セスシテ極メテ漠然タル「ハイク、クライム、
 アント、マイステメアノルス」ノ語ヲ以テス我憲法ニモ瀆職及ヒ亂財ナ

ル語ヲ保存セサルヘカラストスレハ必スヤ之ヲ廣義ニ解シ極メテ其
 範圍ヲ擴張シ宰相ノ其權限内ニテ國家ヲ害スル所爲ヲ行ヒシ時ハ渾
 テ之ニ瀆職ノ罪アリト爲サ、ルヘカラスト
 人恐ラクハ予ヲ目スルニ宰相ヲ甚シキ不利ニシテ危險ナル地位ニ置
 クモノナリト爲スヘシ去レ臣國人ハ法律ノ確乎タル明文ニテ保護ス
 ルヲ要スト云ヒ宰相ハ公訴者及ヒ裁判官ヨリ專擅ノ處分ヲ受クヘシ
 ト云フハ是レ止ムヲ得サルニ出ツル所ニシテ敢テ事理ノ自然ニ悖戾
 スル所ニ非ス宰相ニ專擅ノ處分ヲ加ウルハ固ヨリ不都合ナリト雖モ
 此不都合ハ下文ニ證明スル如ク程式ヲ嚴肅ニシ高貴ノ裁判官ヲ用ヒ
 及ヒ刑罰ヲ寛大ニシテ贖フヲ得ヘシ予ハ實際ニ避クヘカラサルモノ
 ハ理論ニ於テモ常ニ明舉シテ指示セスンハアラサルナリ
 宰相ハ成文法ノ明文ヲ犯サスシテ罪惡ヲ行フ許多ノ方法ヲ有スルヲ

以テ若シ憲法ニテ其罪惡ヲ豫防シ犯人ヲ責罰シ若クハ驅除スルノ方
 法ヲ設ケスンハ必ラス憲法外ニ出テ之ヲ制スルノ方法ヲ行フ者アル
 ヘシ凡ソ法文ニ觸レ程式ヲ外ツサ、ルノミチ是レ事トスル者ハ勢ヒ
 正大ノ志ヲ失ヒ動モアレハ私怨ヲ挾ミ惡念ヲ抱キ暴行ヲ行フヲ免カ
 レズ宰相ト雖モ豈ニ此ニ陷ラサルヲ得ンヤ此ノ如クナレハ其心ヲ用
 ユル極メテ薄ク辱ヲ忘レ危ヲ犯シテ只管徑捷ノ途ニ就クヲ欲スルハ
 蓋シ勢ノ然ラシムル所ナリ然リト雖モ天下ノ事豈ニ權謀詐術ヲ得テ
 久シク蔽フモノ、ミナランヤ其積ンテ民怨トナリ其發シテ騷亂トナ
 ルニ至レバ其レ之ヲ如何スヘキヤ宰相ニ對シ明定ノ法律ヲ設ケテ足
 レリトスルハ其所爲ノ全体及ヒ施政ノ方向ヲ指テ問ハス空シク之ヲ
 法律ノ範圍外ニ驅除スルニ異ナラス法律ノミニテ之ヲ制セントスル
 ハ平常其德ヲ滅殺セシメ一朝事アルニ常テモ法律ニ從ヒ之ヲ處分ス

ル能ハストシテ單ニ其生シタル危害ノ大小ト其招キタル人怨ノ輕重トヲ憑據ト爲スヘシト定ムルニ外ナラサルナリ

予ノ議法官タル時予ト職ヲ共ニセシ人ハ予ノ茲ニ陳スル説ヲ左ノ言詞ニテ演述セリ是レ予ノ喜フ所ナリ曰ク宰相ヲ訴ヘ及ヒ其訴ヲ判決スヘキ憲法上ノ職務ハ上下ノ二議院ニ屬スルモ之ヲ裁判所及ヒ裁判官ト見做サ、ルヲ要ス上下ノ二議院ハ高等ノ陪審官ニシテ法律ニ拘束セラル、トナク良知ト本心トヲ裁判ノ標準ト爲サニシテハ以テ其職務ヲ高行スルヲ得スト

責任ニ關スル法律ハ普通法律ノ如ク各種ノ場合ヲ明定スヘカラサルモノニシテ心スシモ臨機ノ處分ヲ要スルノ性質アル法律ナリト云フモ予ハ以テ專擅家タルニ非サルヲ固ク信シテ疑ハサルナリ請フ予ノ前文ニ述ヘシ英國ノ慣例ヲ見ヨ英國ノ宰相ハ臨辭ノ處分ヲ受クルノ

義務アリテ確定法律ノ規定セル責任ナキニ非スヤ然ルニ英人ノ自由ハ常ニ存立シテ百數十年來少シモ動搖シタルヲナク宰相モ無限ノ責任アリテ絶ヘス攻撃ヲ受ケルモ裁判ヲ受ケシ者甚タ擿ク刑ヲ科セラレシ者未ダ曾テアラサルナリ

請フ往事ヲ回顧シテ感ヲ起ス勿レ我輩ハ激烈輕悍ニシテ恰モ主人ノ束縛ヲ脱セシ奴隸ノ如クナリシカ今ヤ翻テ自由ノ人民トナレリ我輩ハ今ヨリ益々剛毅不屈ノ志ヲ抱キ以テ自由ノ制度ヲ設定セハ安全ニシテ且ツ賢良ナル人民トナルヘキヤ日ヲ指ミテ期スヘキナリ

第七章 宰相ハ不徳ニシテ公ケノ信任ヲ受クヘカラスト公言ス

ル

宰相責任ノトニ就キ議院ニテ討論アリタル時宰相ノ直接ニ法律ヲ犯サスシテ國家ノ安寧帝室ノ尊榮又ハ人民ノ自由ヲ害スルトキハ公然

之ヲ訴フルヲ廢シ外見ニテ最モ穩便ナル所ノ方法ヲ以テ之ニ更ヘン
 ト申述シタル者アリ論者ノ意ハ宰相ハ不徳ニシテ公ケノ信任ヲ受ク
 ヘカラスト公言スルノ權ヲ議院ニ附與セント欲スルニ在ルナリ
 然リト雖モ宰相ノ議院ニテ多數ヲ失フハ實際議院ニテ其不徳ナルヲ
 公言スルト同一ナルニ非スヤ若シ我國ニテ將來ニ立憲君主政治ニ必
 要ナル所謂ル議院ト共行スヘキ政黨内閣ヲ保護スル不動ノ多數ノ政
 黨ト其反對政黨ト有スルニ至ラハ多數ノ保護ヲ受ケサル宰相ハ議
 院ヲ解散シ人民ニ訴ヘテ新ニ撰擧ヲ爲サシムルニ非スノハ一日モ其
 位ヲ保ツヲ得サレヘシ而シテ其人民ニ新ニ撰擧ヲ爲サシムルハ未タ
 公ケノ信任アルヤ否ヤヲ試ムルモノトス然ラハ則チ議院ニテ宰相ノ
 不徳ナルヲ公言スルハ勞セスシテ判然スヘキ事實ヲ表明スルノニ何
 リ公訴ヲ行フノ代用ト爲フヲ得ンヤ且ツ宰相ノ不徳ナルヲ公言スル

ハ公訴ヲ爲スカ如ク嚴肅ナラサルヲ以テ人恐ラクハ之ヲ濫用スルニ
 至ルヘシ論者ノ公訴ヲ濫用スルノ弊アルヲ畏ルハ是レ議院ヲ目シ
 テ亂言ヲ好ムト爲スニ因レリ議院ニシテ果シテ亂言ヲ好ムトセハ其
 宰相ハ不徳ナリト公言スルハ之ヲ訴フルヨリ多カルヘシト爲サ、ル
 ヲ得ス何トナレハ之ヲ不徳ナリト公言スルハ證據ヲ擧クルヲ要セス
 又義務ヲ負フノ畏ナケレハ議院ハ勞セスシテ恣ニ之ヲ苦シマシムル
 ヲ得ヘキカ故ナリ又議院ハ亂言ヲ好マストスルモ宰相ノ不徳ヲ公言
 スルノ無益ナルハ右ニ論定シタルカ如ク無益ノ法ヲ設ケテ危ヲ犯ス
 カ如キハ愚ノ至リト謂フヘシ
 加フルニ宰相ニ對シテ公訴ノ起リシ時ハ後文ニ陳述スル裁判所ニテ
 之ヲ判決シ以テ政府ト代議士ノ間ヲ調和スヘシト雖モ宰相ヲ不徳ナ
 リト公言スルニ至テハ固ヨリ裁判所ヲ設ケテ其正邪ヲ判決セシムヘ

キニ非サレハ其所爲ハ戰ヲ挑トムト同一ニシテ徒ニ有害ノ結果ヲ生
シ帝王ト代議士トチ敵對セシメテ其間隙ヲ彌縫スル單孤中立ノ官權
ナキニ至ラシムヘキノミ
又宰相チ不徳ナリト公言スルハ直接ニ帝王ノ特權ヲ害スル所爲ニシ
テ恰カモ帝王ト撰任ノ大權ヲ爭フカ如シ公訴ヲ起スハ則チ然ラス宰
相ハ有罪ノ宜告ヲ受クホモ之ヲ撰任シタルハ其時ヨリ以前ニシテ帝
王ハ敢テ其咎ヲ受クルノ憂ナキヲ得ヘシ宰相チ訴フルハ之ヲ攻擧ス
ルニ止マリ其不徳ナルヲ公言スルハ延テ帝王ヲ犯シ或ハ其處分ヲ毀
チ或ハ其明德ヲ瀆カスニ同シ代議政体ニテ畏ルヘキモノ實ニ是レヨ
リ甚シキモノアラサルナリ
代議政体ニテ帝王ニ欵クヘカラサルハ其撰任ノ大權ヲ不羈自由ナラ
シムルト是ナリ夫レ帝王ハ躬親ヲ事チ行ハス唯大權チ一ニ總ヘ自ラ

其主長トナリ彼ヲ撫テ是チ柔ラケ事ニ干與セスシテ政務ヲ活動セシ
ムルノ任アリ其神聖ナルハ其レ之ニ因レリ然ラハ則チ此特權ハ全ク
帝王ニ任シテ固ク之ヲ崇尊シ苟モ之ヲ犯スカ如キハ嚴ニ禁スルヲ要
ス然ルニ議院ニ官吏チ遠クルノ權アラシムレバ代議士ハ巧ニ之ヲ行
フテ暗ニ撰任ノ大權ヲ犯スチ得ヘキニ至ラン
余ハ固ヨリ專制權チ喜フ者ニ非ス世人モ恐クハ專制權チ喜フモノト
シテ予チ攻擧スルヲナカルヘシ然レモ王權ハ強盛ニシテ人民ノ幸福
王室ノ光榮チ増進スルニ足ルノ尊敬ヲ受ケシコ予ノ切ニ希望スル所
ナリ
議院ノ議事チ自由ニシテ出版ニテ重ネテ平穩ニ保助獎勵スルハ緊要
ナルトナリ反對政黨ニモ盛ニ黨議チ張ルノ權利ヲ與ヘ其議院ニテ宰
相ニ多數チ失ハシメント爲ス憲法上ノ方法ヲ自由ニ行フチ得セシム

ルモ亦極メテ緊要ナルトトス然レモ一タヒ開通セバ其激シク闖入ス
 ル道途ハ決シテ之ニ開クヘカラス宰相ヲ不徳ナリト公言スルカ如キ
 ハ無益ノ程式トナラスハ亂言ヲ喜フ者ノ兇器ト變スヘキナリ
 宰相ノ一身ニ取リテモ屢々不徳ナリト公言セラレンヨリ寧ロ偶々公
 訴ヲ受クルヲ便ナリト爲スヘシ公訴ハ或ハ過激ナルモ之ニ應スルノ
 方法ナキニ非ス不徳ナリト公言セラル、ニ至テハ茫乎トシテ之ヲ執
 フルニ道ナシ宰相ヲ訴ヘヨノ一言ハ宰相ヲ辨護シテ最モ効アル語ナ
 リ
 予ハ前言ヲ反覆シテ重ネテ茲ニ陳述セントス曰ク宰相ノ信任ヲ得ル
 ト否トハ之ヲ保護スル多數アルト否トニ因テ證スルニ餘リアリト是
 レ正當ノ方法ニシテ立憲政治ノ要所ナリ其他ノ方法ノ如キハ強テ搜
 索スルモ皆以テ用ユルニ足ラサルノミ

第八章 宰相ヲ判決スヘキ裁判所

予ノ説ヲ今一層明瞭ニセン爲メ既ニ論辨シタル所ヲ重ネテ茲ニ陳述
 スヘシ曰ク責任ニ關スル法律ハ普通法ノ如ク明確ナルヲ得ヌ又各種
 ノ場合ヲ豫定スルヲ得ヌ是レ政治上ノ法律ニシテ必スシモ臨機ノ處
 分ヲ要スルノ性質アルモノトス故ニ責任ノ本則ヲ實施スルニ就テハ
 事々物々總テ命令シ及ヒ規定シタル法律ヲ適用スヘキ程式ト異ナル
 所ノ程式アルヲ要ス
 軍事ヲ指揮スルノ方法ヲ過チ其正否ヲ誤認シ又ハ財政ヲ紊亂シ若ク
 ハ法律上ノ權限ヲ誤用スルカ如キハ過誤失策若クハ不能ニ出テ敢テ
 惡意ヲ挾ムノ致ス所ニ非サルト往々ニシテコレアリ此等ノ事件ハ皆
 極メテ錯雜スルヲ以テ之ヲ審理スルニモ特別ノ裁判所ヲ設ケテ臨機
 ノ處分ヲ爲スノ權ヲ授ケ被告人ノ爲メ其所爲ト旨意トノ二者ヲ公平

ニ斟酌シ地位ト利益ト性質トニ因テ此目的ヲ充足スヘキ裁判官ヲ撰
任シ之ニ伸縮自由ノ權限ヲ附與シ且ツ其宣告スヘキ刑ヲ輕寬ナラシ
ムルヲ要ス
予ハ既ニ云ヘリ審理スヘキノ事件心意如何ニ關シテ錯雜スヘキ性質
アル時ハ必ス陪審官ノ判決ヲ仰カサルヲ得スト又上官ノ命令ニ順從
シ又ハ背反シテ自由及ヒ人權ヲ害スル下等官吏ノ罪ヲ公平ニ斟酌ス
ルニモ之ヲ捨テ、他ニ適當ノ方法ナキ所以ヲ證明シタリ然ラハ則チ
今一層錯雜シテ成文法ノ明定シ得サル事件ヲ審理スルニハ陪審官ノ
如キ便利ヲ生スル官權ヲ設ケスンバ以テ公平ニ宰相ヲ判決スルヲ得
サルヤ明ナルヘシ且ツ其事件ハ政治ノ一大問題ニ交渉シ人民ノ秘密
ナル最大利益ニ關係アレハ未タ通常陪審官ヲ用ヒテ充分ナリト爲ス
ヘカラサルナリ

人民ノ代議士ハ財政ヲ監督シ且ツ幾分カ外交事務ニモ干預スルノ任
アリ何トナレハ宰相ハ外交事件ノ結了シタル毎ニ之ニ其辨明ヲ爲ス
ノ義務アルヲ以テナリ此點ヨリ觀察スレハ宰相ヲ褒貶シテ其功罪ヲ
調査スルノ任ハ擧テ之ヲ代議士ニ附與セサルヘカラサルカ如シト雖
モ抑モ代議士ハ定期間人民ヨリ撰任セラレ須臾モ之ヲ忘ル、トナシ
汲々トシテ常ニ委任者ノ心意ニ投合セント欲スヘキカ故ニ其精神ハ
絶ヘス民望ヲ博セントスルノ弊ナキ能ハス况ヤ其權限ハ宰相ニ敵對
スルモノ多ケレハ之ヲ其公訴人ト爲スハ可ナリ之ヲ其裁判官ト爲ス
ハ理ノ許ス所ニ非サルナリ嗚呼此重大ノ任務ハ公平無私ノ確乎トシ
テ疑ナキ官權ニ非スンバ得テ委ヌル能ハサルナリ
宰相ヲ訴フルハ實際行政官ト代議士トノ間ニ起ル訴訟ナリ是以テ之
ヲ判決スルニハ同時ニ人民及ヒ政府ト利益ヲ異ニシテ政府ハ人民、

ニ聯合スル特別ノ利益アル裁判所ヲシテ其任ニ當ラシメサルヲ得ス
 元老院ハ此二箇ノ性質ヲ併有ス蓋シ其議員ハ特權アリテ人民ト雖レ
 最早通常ノ身分ニ戻ルコアルヘカラス乃チ人民ト利益ヲ同フセスト
 謂ハサルヲ得ス又其員數モ夥多ニシテ常ニ政府ニ加擔スル多數ノ成
 立スル妨害ヲ爲スヘシ此點ニ就テハ其多數ハ政府ト異ナルノ利益ヲ
 有スト謂ハサルヘカラス元老院ノ性質既ニ此ノ如シト雖モ人民ノ自
 由ヲ保護スルモ亦其利益ナルヘシ何トナレハ人民ノ自由消滅スレハ
 元老院モ自由ト尊榮ヲ失フニ至ルヘキヲ以テナリ又政府ヲ保全スル
 モ其利益ナルヘシ何トナレハ政府ニシテ顛覆スレハ元老院モ共ニ崩
 潰スルニ至ルヘキガ故ナリ
 然ラハ則チ元老院ハ獨立ト中立トノ性質アルニ因テ責任ノ範圍内ニ
 入ルヘキ各種ノ犯罪ヲ判決スル適當ノ裁判官ナリト謂フヘシ

元老院ヲ宰相ノ裁判官ト爲スハ宰相ニ加フヘキ專擅ノ弊ヲ防キ以テ
 其恐怖ノ念ヲ止ムルニ足ル確乎不動ノ方法ナルト是ニ於テカ明ナリ
 元老院ノ議員ハ宰相ノ行狀ヲ審理スルニ際シテ原告人ノ抱クカ如キ
 情慾ニ蔽ハル、トナキノミナラス退テハ國家ノ大事ヲ考查スルノ教
 育ヲ受ケ進ノテハ秘密ノ政務ニ參預スルノ任ヲ負ヒ職務ニ因テ保守
 主義ニ感染シ位階ニ因テ着實ノ性質ト温良ノ風俗トヲ享有ス其裁判
 ヲ爲スニ鄭重ニシテ謹篤ノ處分ヲ爲スヤ必セリ其正理ヲ詳察シテ成
 文法ヲ補フヘキヤ蓋シ疑ヲ容レサルナリ

第九章 宰相ニ對シテ訴ヲ起ス下及ヒ其訴訟ノ辨論ヲ公ケニス

ル下

予ハ世人ノ疑懼ヲ鎮靜センカ爲メ先ツ裁判官ヲ論セリ請フ是ヨリ公
 訴人ヲ論セン

宰相ノ公訴人ハ前文ニ陳述シタル如ク獨リ代議院之ヲ能クス平人ハ政府ノ事務ニ就キ宰相ヲ訴フヘシト否トヲ決スルニ必要ナル知識ヲ具フルモノニ非ス又宰相ノ罪ノ公衆ニ係ル時ノ如キハ平人トシテ辛苦ヲ嘗メ危嶮ニ當リ以テ宰相ヲ訴フルノ勞ニ任スルモノナカルヘシ但シ宰相ノ一個人ニ對シテ罪アル時ハ前文ニ陳述シタル如ク被害者ヨリ通常ノ裁判所ニ訴ヲ起サシメサルヲ得スト雖此場合ハ宰相ニ責任アルニ非ルナリ

人民ノ代議士ニ特ニ授クルニ責任アリトシテ論スヘキ宰相ヲ訴フルノ權ヲ以テスト雖此予ハ平人ヨリ請願書ノ体裁ニテ作爲セル告發狀ヲ出スヘカラスト定ムルヲ欲セサルナリ夫レ官吏ノ所爲又ハ處分ニシテ苟モ責罰スヘキモノアリト思料スル時ハ國人皆之ヲ人民ノ代議士ニ告發スルノ權アリ唯神聖ナル位ニ在テ犯スヘカラスルハ獨リ帝

王ノミ帝王ハ尊ク國事ヲ調和スルモノニシテ躬親ヲ事ヲ行ハス何ソ宰相ト均シク議スルヲ得ンヤ然レモ宰相ノ責任ニ歸スル事物ニ至テハ國人皆之ヲ攻撃スルヲ得ヘシ唯其告發ハ代議院ヨリ點驗シテ認可シタル後ニ非スンハ法律上ノ性質ヲ帶フルニ至ラサルノミ是故ニ宰相ヲ訴フヘキヤ否ヤハ代議院ニテ議決セサルヘカラス而シテ其議決ハ公ケニ行ハサルヘカラスアル乎之ヲ公ケニスヘカラスト論スル者ハ巧妙ナル三箇ノ理由ヲ指示セリ曰ク國家ノ秘密モ爲メニ輕佻ノ演說者ノ左右スル所トナルヘシ曰ク宰相ノ榮譽モ爲メニ害セラルヘシ曰ク宰相ヲ訴フヘシト云フ說ハ辨論ノ後不當ナリト證明セラル、モ以テ人心ヲ動搖スルニ至ルヘシト國家ノ密事ハ小人ノ唱フル如ク又庸人ノ信スルカ如ク其數多シトセス凡ソ事ヲ秘スルハ一時ノ止ムヲ得サルニ出ツル所ニシテ其場合ハ

至テ勘シ例ハ非常ノ時ニ際シテ戰ヲ起シ又ハ盟約ヲ結フカ如シ此
 二者ヲ除ケハ政府ノ事ヲ秘セントスルハ唯公議ヲ用ヒスシテ之ヲ行
 ハント欲スルカ故ナルノミ古ヨリ政府ハ公議ニ附スルノ利益アルヲ
 慮ラスシテ一概ニ事ヲ秘スルナ是レ好ミ既ニ行フテ而シテ後ヲ公議
 ニ附セサリシテ惜シムコ枚舉スルニ堪ヘサルナリ
 事ヲ秘スルヲ必要ナリト爲スヘキ場合ニ在テモ宰相責任ヲ議スルノ
 辨論ヨリ之ヲ漏ラヌトアラサルナリ何トナレハ其辨論ハ事ノ公ケト
 ナリシ後ニ至テ行ハルレハナリ
 宣戰媾和軍務外交締約等ノ國事ハ皆行政權ニ屬ス然リ而シテ宣戰ヲ
 不正ナリトシテ宰相ニ責任ヲ負ハシムルハ戰ノ終ハラシ後ノミ外征
 ノ理由ヲ詰問スルモ其成否ノ後ノミ締約ノ條件ヲ驗査スルモ亦其結
 了シタル後ノミ

然ラハ則チ宰相ノ責任ニ關スル辨論ハ既ニ世上ニ傳ハル事件ニ係ラ
 スンハアラス其結果ハ既ニ公然タル事件ナシテ再ヒ公衆ニ注目セシ
 ムルノミ其密事ヲ漏泄スルコトナキヤ以テ知ルヘキナリ
 宰相ノ榮譽ヲ保護スルニ付テモ之ニ對スル辨論ヲ秘センヨリ寧ロ公
 ケニスルヲ以テ優レリト爲スヘシ蓋シ之ヲ公ケニセスンハ宰相ニ責
 ナキヲ證明シ得ルモ其効ヤ之ヲ證明セサルニ異ナラス且ツ宰相ヲ訴
 ヘント主持スル者ハ勢ヒ其旨意ヲ傳播セント欲スヘク而シテ其之ヲ
 傳播スルヤ談話ノ際ニ漠然タル言辭ヲ以テスルカ故ニ其述フル所曖
 昧ニ流レ遂ニ化シテ人情ニ投合スル臆度附會ノ流言トナルヘシ事茲
 ニ至レハ眞理ニ訴ウルモ亦奈何トモスル能ハス論者ハ發論者ノ口ヲ
 閉ツル能ハスシテ徒ニ之ニ答フルノ道ヲ塞キ宰相ノ敵人ニ實事ヲ隱
 蔽シテ虛事ヲ傳フルノ術ヲ援シ思ハサルノ甚ダシキモノト謂フヘシ

若シ辨論ヲ公ケニシテ充分ニ行ハシムレハ告發セラレシ宰相ノ所爲
 ナ人民一般ニ通スルヲ得テ或ハ同時ニ其實意ト無罪トヲ表明スルニ
 至ルモ知ルヘカラス然ルニ之ヲ秘スレハ其罪ナシト雖モ國人ノ疑惑
 冥々ノ間ニ出沒シ代議士モ己レノ權威ヲ伸張スルヲ得スシテ動モス
 レハ黨人ヲ以テ目セラル、ニ至ルヘシ
 人心ヲ動搖セシムルノ畏アリト云ヘル理由モ同一ノ旨意ニテ駁スル
 足ルヘシ夫レ權威アル人ヲ訴フレハ人心發動シ争テ之ヲ知ラントス
 ルニ至ルハ到底免カルヘカラサルノ數ナリ唯此際ニ於テハ其弊害ヲ
 防クヲ要スルノミ人心ノ發動シテ生スル所ノ弊ヲ除カントセバ事實
 ナ知ラシメスンハアルヘカラス其事實ヲ知ラントシテ生スル所ノ害
 ヲ去ラント欲セハ人心ヲ發動シテ之ヲ明知セシムルニ在ルヘシ
 凡ソ危難ハ天下ノ耳目ヲ蔽ヒ以テ避クヘキニ非ス若シ之ヲ曖昧ニ附

シ去ラハ其勢ヒ益々甚シク冥々ノ間ニ畏ルヘキノ結果ヲ生スルモノ
 アルヘシ暗々裏ニ存スル事物ハ其情態怪偉ニシテ恐怖ノ念ヲ生セシ
 ムルモノトス

無稽ノ激論ヲ忌ミ不當ノ公訴ヲ畏ル、ハ深ク現今ノ時勢ヲ觀察セサ
 ルノ罪ナリ抑モ此等ノ所爲ハ世人ノ惡ム所公論ノ卑ム所トナルカ故
 ニ人々自ラ之ヲ慎ミ既ニ之ヲ行ヒシ者モ復タ再ヒスルヲナカルヘキ
 ナリ唯其危嶮ト生スルハ牽制ノ治具ナキ專制政治若クハ庶民專治ノ
 國ナルノミ專制政治ノ國ニ在テハ其餘波四方ニ及ヒ政府ニ反對スル
 者ノ喜フ所トナルヘシ庶民專治ノ國ニ在テハ政權混淆シテ一ニ合ス
 ルヲ以テ苟モ雄辨ニ因リ衆庶ヲ籠絡シテ政權ヲ占領セハ以テ直ニ專
 制者タルヲ得ヘク畢竟庶民專治ハ名ヲ異ニスル專制政治ナリ然レモ
 政權ノ互ニ平均シテ各々相牽制スル國ニ至テハ雄辨ニハ此ノ如ク神

速ニシテ重大ナル勢力アルヲアラサルナリ
 英國ノ下院ニ於テモ少年客氣ノ激論者甚シトモ然レモ其說ヲ演ブ
 ルヤ何人モ之ヲ聽カザルヲ以テ彼レ自ラ黙シテ止マサルヲ得サルニ
 至ル夫レ議院ハ固有ノ光榮ヲ保存スルノ利益アルヨリ議員モ各々互
 ニ抑制スル所アリテ危言暴説モ常ニ行ハレサルヲ得ヘシ是レ特ニ言
 論ノ自由ヲ奪フノ致ス所ニ非ス公衆モ過激ノ言論及ヒ不當ノ公訴ア
 ラハ則チ之ヲ評論スヘシ論者ヨリ議院ニ自ラ學フ所アラシメヨ其爲ス
 所ニ放任シテ之ニ干渉スル勿レ之ニ干渉スルハ其進歩ヲ妨害スル所
 以ナリ汝若シ之ニ干渉スルヲ必要ナリトモ唯目前ニ効チ生スルモ
 ノ、ミチ監督セヨ法律ヲ設ケテ騷擾ヲ防止スルハ不可ナラスト雖モ
 事ヲ公行スルノ之ヲ防止スル最上ノ方法タルヲ忘ル、ト勿レ事ヲ公
 行スルハ國民ノ多數ヲ汝ノ黨與ト爲スノ方法ナリ否ラサレハ汝ハ鎮

制ニ奔走シ恐ラクハ干戈ニ訴ヘサルヲ得サルヲアルヘシ汝若シ國民
 ノ多數ノ輔佐ヲ受ケ道理ヲ以テ援助トモハ何チ爲テカ成ラサレヤ
 此勢力アル輔佐ヲ得ルハ事ヲ秘セシテ却テ之ヲ明示セザンハ能ハ
 ス
 論者ヨリ汝ハ人民ノ靜寧ニシテ國安ノ鞏固ナルヲ欲スル乎苟モ之ヲ欲
 セハ人民ニ告クルニ其利益ニ關シテ悉ク告クルヲ得ヘキモノヲ以テ
 セヨ人民益々之ヲ知了セハ其益々正明ノ判斷ヲ爲シテ愈々靜寧ナル
 ヘシ人民ハ秘スル所ヲ畏レ懼ル、所ニ因テ怒ヲ發ヘキナリ
 第十章 訴訟手續

代議院ニ於テ宰相ニ對シ公訴ヲ起スヘキヤ否ヤヲ驗査シ辨論ノ後之
 ナ起スヘシト決シタル時ハ最モ其事情ニ通スルモノトシテ該院ニ其
 事件ヲ委任セサルヘカラサルカ如シ然ルニ千八百十四年我數名ノ代

議士ハ帝王ヨリ特ニ終身官ノ法官ヲ撰任シ又ハ或ル程式ニ因リ諸裁
 判所ノ檢察官ヨリ檢事ヲ特撰シテ之ヲ委任セシト發言シタリ
 予謂ラク此ノ如キ說ハ毫モ論スルニ足ラサルヘシト嗚呼行政權ニ隸
 屬シテ其自由ニ黜免スルヲ得ヘキ者ニ奈何シテ行政權ヲ掌握スル者
 ヲ訴フルノ職務ヲ授クルヲ得ヘシトスル乎之ニ此ノ如キ職務ヲ授ク
 ルハ或ハ其撰任者ヨリシ人ニシテ後チ更ニ其長官タルコアルヘキ者
 ヲ訴ウヘシト命スルモノトテ愚モ亦甚シカラスヤ
 終身官ノ大法官ヲ任スルニ至テハ此ノ如キ不都合ナシト雖モ貴族專
 治ノ國ニ於テ探偵ノ器械トナリ暴政ノ輔佐タリシ古昔ノ究問者ヲ再
 出セシムルノ狀ナキニ非サルヤ此大法官ハ同時ニ帝王ト人民トニ對
 シテ獨立スルノ狀態ナキニ非サルヤ其無事ニ苦ムモ予見ル所ニ於テ
 ハ亦畏レサルヘカラス其宰相ヲ監督スル猶ホ背後ノ敵ノ如ク常ニ嚴

刻ノ職務ヲ行フノ機會ヲ得テ重キヲ致サント欲セサルハナシ其居ル
 所ハ孤立シテ勞動セサルノ地位ナルモ其權威陰然トシテ畏ルヘキモ
 ノアルヘシ
 此官ハ我風俗ト君主政治ノ精神ニ背馳スルヲ以テ我邦ニ於テハ其勢
 力次第ニ減スヘキト雖モ其減スル或ハ甚シキニ過キ却テ有名無實ナ
 ルノ弊ヲ生スルニ至ラン乎大法官ハ殆ント宰相ト其位ヲ同ウスルヨ
 リ必ス之ト交際セサルヲ得ス之ト交際スレハ我社會ニ於テハ己レノ
 職務ヲ行フニ於テ最モ困難ナル高尙ノ義務ヲ負フニ至ル蓋シ平常親
 ク交ル所ノ宰相ニ對シテ嚴ニ訴ヲ起サハ痛ク世人ノ攻撃ヲ受ケ國民
 ニ對シテ叛逆ノ罪ヲ行ヒシヨリ更ニ甚シキモノアルヘシ此ノ如キ勢
 ナレハ其黜テ宰相ノ黨與トナリ或ハ其ニ不正ノ所爲ヲ企ツルモ得テ
 知ルヘカラサルナリ

或ハ云ハシテ議院ハ宰相ヲ訴フヘシト命シタルヲ以テ大法官ノ行狀モ監督シテ其職務ヲ輕ノスルヲナカラシムヘシト然レモ凡ソ人其好ム所ニ非ズンハ能ク之ヲ行ハス其竊ニ嫌疑スル事業ノ如キハ強テ行ハシムルモ百方術ヲ施シテ回避セントスルヤ復タ疑フヘキニ非ス果シテ然ラハ如何ニ監督ヲ施スモ何ソ其効アラシヤ且ツ大法官ハ誠實ニシテ勇氣アリトスルモ宰相ヲ訴フヘシト命シタル者ハ其勇氣ヲ感シ其誠實ノ心ヲ賞スヘシトスル乎論者ヨ汝ハ議院ニテ不滿ノ聲ヲ聞クニ至ラサルヘシトスル乎大法官ノ戰々徐々トシテ宰相ヲ訴ウル時ハ議院ハ宰相ト共ニ之ヲ責罰セント云ハサルヘシトスル乎宰相ヲ訴フヘシト命シタル者ヨリ大法官ハ訴訟ノ旨意ヲ主張セサリシト唱ヘサルヘシトスル乎又被害者ノ放免セララル、時ハ其言渡ヲ以テ受任者大法官ノ貳心ニ出テシト云ハサルヘシトスル乎

予ハ尙ホ他ニ畏ル、トアリ議院自ラ宰相ヲ訴ウヘシト議決シタル時ハ予ハ其訴ヲ爲スノ任ヲ受クル大法官ノ怠タランカヲ畏レ新宰相ノ告發者トナリテ訴ノ起ル時ハ予ヤ其過激ナランヲ畏ル事異ナルモ畏ル、ノ度ハ則チ同シ論者ハ被告人ニ當ツルニ訴ヲ起スノ決議ニ參與セラル者ヲ用ヒテ之ヲ保護セント思惟スルモ是レ誤マレリト謂フヘシ隸屬心ハ怒ヲ挾ムヨリ却テ激ニ渉ルヘシ噫古ヨリ刑罰ヲ受ケシ宰相ニシテ其後任者ノ告發スル所ト爲ラサル者殆ント稀ナリ思フニ民情ハ決シテ忠義ノ趣ナシトスヘカラス一名ノ法官ハ望ム所多ク願フ所敷ヘ難シ豈ニ其心ノ此ニ誘導セララル、トナシトセンヤ予ハ一名ノ大法官ヨリ寧ロ民情ヲ重ニスルノ議院ヲ撰擇スヘキナリ又責任ノ範圍内ニ歸スヘキ事件ハ予ノ屢々陳述シタル如ク法律上ノ問題タランヨリ寧ロ政治上ノ問題ナルヲ以テ其事件ニ關スル訴モ裁

判所ノ職員ヨリ撰任シタル者ニ委ネノヨリ寧ロ議院ニ委ヌルニ若カ
 サルナリ裁判所ノ職員ハ外交軍機財政ヲ知ラサルノミナラス歐州ノ
 形勢モ僅ニ一端ヲ窺ヒシニ過キサルヘシ況ヤ其學ブ所ハ成文ノ法典
 ノミニシテ平常ノ職務ハ區々タル死文ヲ參照シ確定ノ法律ヲ適用ス
 ルニ止マルニ於テヲヤ今大法官ハ法學士ナリ其精神モ規則ニ拘泥ス
 ル通常檢察官ト同一ナル精神ナリ是責任ニ關スル事件ヲ掌トルニ足
 ラサルヲ明ナリ蓋シ此事件ハ國家ノ利害ヲ圖リ或ハ歐州ノ形勢ヲ鑑
 ミテ考察スヘキ性質アルモノニシテ元老議員ヲ高等陪審官ト爲シ其
 知識榮譽及ヒ本心ニ因テ判決セシムヘキモノトス
 請フ常ニ正道ヲ踏ミ各人ヲシテ其爲スヘキモノヲ爲サシメヨ公平無
 私ノ心ヲ有セシムヘキモノハ公訴人ニ非ス裁判官ナリ訴ヲ受ケシ宰
 相ノ敵手ニハ其訴訟ノ審理法ニ關シテ疑ヲ容ル、ノ地ナカラシメヨ

彼レ如何ニ精神ヲ勵マシ雄辨ヲ奮ヒ辭柄ヲ設クルモ其主持スル所不
 當ナレハ其不當ナル所自ラ顯ハレ此ノ如クニシテ事々物々總テ明晰
 高尙ニシテ一點ノ疑ナキヲ得ヘシ乃チ罪ノ論スヘキモノアランカ其
 發覺セサルヲ少ク又罪ノ論スヘキモノナシトセンカ訴ノ錯誤ニ出テ
 シヲ明ナルヘシ果シテ然ラハ輿論モ之ヲ是認シ人心モ疑ヲ起スヲナ
 カルヘキナリ

第十一章 宰相ニ言渡スヘキ刑罰

宰相ノ裁判官ニ刑罰ヲ撰擇シ以テ之ヲ適用スルノ權ヲ授クルハ責任
 ニ關スル法律ノ性質ヨリ湧出スル所ナリ抑モ此法律ニテ論スヘキ犯
 罪又ハ過失ハ一箇ノ所爲ヨリ成立スヘキニ非ス又數箇ノ連續セル所
 爲ヨリ成立スヘキニモ非ス而シテ其情況ノ如キモ言語ノ得テ指示ス
 ル能ハサル所ナリ況ンヤ法律ニ於テオヤ唯之ヲ加重減輕スルモノハ

元老議員ノ本心如何ニ在ルノミ故ニ元老議員ニハ本心ニテ自由ニ犯罪ト刑罰トヲ判定セシメサルヘカラス然レモ元老院ノ撰擇スルヲ得ヘキハ如何ナル刑罰ナルヤハ豫メ法律ニテ定メサルヲ得ス此ノ如クニシテ定ムヘキ刑罰ハ唯三種アルノミ死刑〔一〕追放禁錮是ナリ而シテ此等ノ刑ハ決シテ加重スヘカラス又加辱ノ性質ヲ附加スヘカラサルナリ

〔一〕ラブーレー氏曰ク死刑ハ世論ノ希望スル所ニ從ヒ政治上ノ犯罪ニ關スル刑罰ノ列ヨリ夙トニ之ヲ除却シタリ是レ實ニ千八百三十年ニシテ宰相ノ罪ハ宥恕スヘカラスト云ヘル法律アリシ時ナリ夫レ宰相ハ如何ナル罪アルモ人民自ラ其咎ヲ受ケ敢テ之ニ不正又ハ利欲ノ所爲アリト見做スヘカラス又時論ハ正直ノ人ヲ陷害スルコトアルヘシトシテ勉メテ之ニ拘泥スヘカラス宰相トシテ其義務ヲ犯

レタル者ニ科スヘキ眞ノ政治上ノ刑ハ獨リ追放アルノミ是レ開明國ノ人民ニ犯人ノ所爲如何ヲ質スノ方法ナリ其他ノ刑ハ皆犯人ノ利益ト變スルノ弊アルヘシ蓋シ世人ハ時ヲ經ルニ從ヒ不幸ノ囚人トシテ之ヲ哀憐スルノ情ヲ發スレハナリ

凡ソ加辱ノ刑ハ普ク弊害ヲ醸生スルモノニシテ顯榮ノ地位ヲ占メ世人ノ仰望スル所ト爲リシ人ニ加フル時ハ其弊害益々甚シキモノアリ法律ニテ榮辱ヲ定ムルハ徒ラニ輿論ノ境界ヲ犯シ恰モ之ト雌雄ヲ決スルカ如シ此ノ如クナレハ國人ノ間必ス軋轢ヲ生シ勢ヒ法律ノ嚴威ヲ損ハサルヲ得ス殊ニ政治上ノ犯罪ニ就テハ之ヲ論スルノ說數派ニ分ル、ヲ以テ此軋轢愈々大ナルヘシ且ツ名ヲ法權ニ假リテ榮辱ヲ定メ天下ノ人ヲシテ之ヲ遵奉セシメントスルハ其精神ヲ滅殺シ其判定力ヲ壓抑スルニ異ナラス畢竟人民ニ何ヲ以テ光榮トシ何ヲ以テ耻辱

ト爲スルキヤヲ知ラサラシムル且至ラシムル其ノ位ニ置キ顯榮ヲ表スルノ特權ヲ附スヘキ者ニ加辱
 又在職中ハ貴重ノ位ニ置キ顯榮ヲ表スルノ特權ヲ附スヘキ者ニ加辱
 入刑ヲ科スルヲ得ヘシト定ムルハ是レ豫メ之ヲ昇ムノ所爲ニシテ前
 後撞着ノ制ナリト謂ハサルベカラズ若シ宰相ニ加辱ノ刑ヲ科スルヲ
 得ヘシトスレハ現ニ宰相ノ職ヲ保有スル者ニ雖モ必ス人民ヨリ蔑視
 セラルハ其ノ大ニシムルハ其ノ位ニ置キ顯榮ヲ表スルノ特權ヲ附スヘキ者ニ加辱
 又人類ニ富貴又地位ヲ失ヒシ者ヲ賤シムル甚シク此ノ如キ風俗ハ
 強メテ養生ヲヘカヌ宰相ノ退ケラレシ後其罪ヲ惡ムハ多クハ嫉妬
 ノ殘餘ニシテ其零落ヲ嫌フノ豈ニ唯其罪ヲ惡ムニ非サルナリ
 宰相ノ罰セラレシ後ハ其言渡世レ刑ニ服役シタル君主ヨリ特赦
 ナ受ケ及以テ其問ハス可成之ヲ保護シ後來其敵人ニ之ヲ苦セシメサ
 ルヲ要ス抑モ其敵人ハ勝利ノ後種々名義ヲ構造シテ之ヲ苦シメ

ト欲セサルヲナシ而シテ其名義トスル所ハ大抵之ヲ社會ニ大害アル
 モト云フニ在リトス嗚呼社會ニ大害アリトシテ援ナキ人ヲ畏ルハ
 ノ不當ナルハ彼レ何ソ之ヲ知ラサランヤ之ヲ畏ルハ其再ヒ權勢ヲ
 占メントスルヲ口實トスルハ却テ之ニ榮譽ヲ與フルト同シキ亦彼レ
 ノ知ル所ナリ然ルニ其不當ナルト不利ナルトヲ知テ尙ホ之ヲ畏ルヘ
 シト云フハ是レ私怨ヲ報センカ爲メ故サテニ名義ヲ構造シテ之ヲ攻
 撃スルニ非スシテ何ソ予ハ切ニ望ム法律ハ固ク此不當不利ノ所爲ヲ
 禁止シ一旦犯人ヲ罰シタル後ハ勉メテ之ヲ保護シ刑ニ服役シタル宰
 相ハ重テ追放シ若クハ禁錮シ又ハ其住所ヨリ遠サクヘカラスト命
 センヲ欲ス此ノ如キ所爲ハ最モ恥シヘキ卑怯ノ所爲ニシテ人民ヲ
 怒ラシメ若クハ之ヲ腐敗セシメ少シク志氣アル者ヲ擧ケテ受刑者ト
 合同セシムルニ至ラシ輿論ノ罰スヘシト指定シタル宰相モ一旦法律

上ノ刑ヲ受ケ尙ホ專擅ノ所爲ニテ之ヲ加重セラレ、至レハ世人ノ
 譏テ之ヲ哀憐シ且ツ之ヲ庇護スルハ固ヨリ勢ノ然ラシムル所ナリ
 第十二章 帝王ノ特權ニ制限ヲ加ヘテ刑罰ヲ受ケシ宰相ニ及ス
 前章ニ於テ宰相ノ有罪ナリト判決ヲ受ケシ時ハ帝王ハ之ニ特赦ヲ施
 スヲ得ヘシト假定シタリシカ或ハ特赦ノ權ヲ擴張シテ斯ル稀有ノ重
 要ナル場合ニ及ホスハ不都合ナリト説ク者アリ然レモ此特赦ノ權ハ
 須臾モ王權ト離スヘカラサルモノニシテ之ニ制限ヲ加フルハ我憲法
 ニ背反シテ君主政治ノ性質ヲ害スルニ至ルヘシ何トナレハ君主政治
 ニ於テハ帝王ハ英國風ニテ云ハ、仁慈ノ出ツル所榮譽ノ發スル所ナ
 レハナリ
 或ハ云ハン帝王ハ宰相ニ不正ノ所爲ヲ命シ然ル後其罪ヲ赦免スルヲ

得ヘシ是レ刑罪ヲ除キ以テ順從ノ宰相ニ順從ノ氣風ヲ養生セシメ貪
 欲ノ宰相ニ慾心ヲ獎勵スルニ非スヤト
 此駁論ヲ判定スルニハ立憲君主政體ノ第一ノ原則ニ遡ラサルヲ得ス
 君主ヲ犯スヘカラストスル者即チ是ナリ君主ヲ犯スヘカラストスル
 ハ君主ハ惡事ヲ爲スヲ得スト見做スニ因レリ此ノ如ク見做スハ法律
 上ノ假定ニシテ敢テ王位ニ在ル者ニ兇惡畏懼ノ性情ナシトスルニ非
 サルヘシト雖モ抑モ此法律上ノ假定ハ國安ヲ維持シ自由ヲ保全スル
 ニ必要ニシテ之レナクハ綱紀紊亂シ君主ト變亂黨ノ間常ニ爭ノ絶
 ムルヲナカルヘシ然ラハ則チ此假定ハ全存シテ固ク之ヲ尊崇セサル
 ヘカラストス一タヒ之ヲ廢棄セハ我輩ノ防禦セシトスル危險ハ忽チニシ
 テ發生スヘシ今帝王ノ意志ヲ疑ヒ其特權ヲ制限スルハ是レ之ヲ廢棄
 スルニ非スシテ何ソ之ヲ廢棄スルハ君主モ惡事ヲ行ハント欲シテ之

チ行フコアルヘシト爲スナリ果シテ然ラハ是レ君主ヲ犯スヘカラス
 ト爲ス假定ヲ破リ立憲君主政体ノ一大原則ヲ崩潰スルモノト謂ハサ
 ルヘカラス蓋シ此原則ハ政權ヲ行フ者チ宰相ノミナリト爲シ獨リ宰
 相ヲシテ其責ニ任セシメ君主ハ特ニ犯スヘカラス神聖ノ地位ニ安
 置シ以テ國人ヲメ之ヲ端睨スルヲ得サラシム左レハ君主ハ兇惡畏懼
 ノ性情ナク又宰相ト通謀スルコトナキ非常人ニシテ其神体ハ社會ノ風
 波ノ上ニ存スル中立無形ノ權勢ナリトス
 專制主義ノ論者ハ帝王ハ常人ニ非スト唱ウルト雖モ其因テ推論ス
 ル所ハ帝王ハ事トシテ爲スヲ得サルモノナク而シテ其意ハ即チ法
 律ナリトセリ予モ立憲國ノ君主ハ常人ニ非スト唱フルモ其理由ヲ
 說クニハ事ヲ行フハ宰相ノミニシテ宰相モ法律ニ因ラスノハ何事
 モ爲スヲ得サルカ故ナリト云フヘシ

人若シ予ノ論定スル所ヲ見テ憲法ノ法理ニ關スル空說ナリト云ハハ
 予ハ好シテ實際ト道義ノ範圍ニ下リ尙ホ帝王ヨリ宰相ニ特赦ヲ施ス
 ノ權ヲ剝奪スルハ之ヲ剝奪スル旨意ト相同シキ重大ノ不都合アルヘ
 シト謂ハントス
 夫レ帝王モ無限ノ大權ヲ得ンカ爲メ宰相ヲ教唆シテ國家ノ憲法ヲ破
 ラシメントスルコトナキニ非ス然ルニ事發覺シ宰相其訴ヲ受ケ彈劾ノ
 後之ニ對シテ裁判言渡アリタリトセヨ君主ノ意チ奉シタル器械ヲ擊
 ントスルニ當リ君主ニ之ヲ妨クヘカラスト爭ヒ以テ犯人ニ刑ヲ科ス
 ルノ允許ヲ強請セハ抑モ如何ナル効果チ生スヘシトスル乎君主ハ政
 務ニ關スル職分ヲ竭クサントセハ宰相ノ赤心ニ報スル貴重ノ職分ニ
 背カサルヲ得ス宰相ノ赤心ニ報セントセハ政務ノ職分ニ背カサルヲ
 得スシテ所謂進退維谷マルノ地位ニ陷イルヘシ嗚呼事不善ナリト雖

已レテ忘レテ之ヲ行フハ則チ忠ナリ忠ヲ竭クシテ己ヲ忘ルハ者ヲ
 罰スルハ忠セザルハ者ノ忍フ能ハサル所ナリ果シテ然ラハ是レ帝王
 一卑怯不信ノ行ヲ強ユルモノナリ是レ君主ニ悔悟ノ情ヲ發セシムル
 モノナリ此ノ如クンハ君主自ラ己レヲ卑シシ人民モ亦之ヲ輕ニスル
 ヤ必セリ英人カマヤル第一世ニ強請シテストラホルド愛國ノ宣
 告セラレシ死刑ノ執行狀ニ記名セシメシヨリ王權漸ク衰へ遂ニ顛覆
 シタルニ非スヤ亦以テ鑒戒ト爲スヘシ
 君主ト自由ヲ同時ニ保全セントセハ不正ノ宰相ハ痛ク攻撃シテ之ニ
 位ヲ退カシメヨ然レモ王權ヲ尊崇シテ君主ヲ傷クルコト勿レ君主ノ感
 スル所ハ極メテ尊崇シ憲法ノ命スル所ニ從テ君主ニ過失アリト疑フ
 コト勿レ君主ニ忠ヲ竭クシテ其他ヲ顧ミサル者アルモ苛刻ノ處分ヲ強
 テ君主ヲ過失ヲ償フノ域ニ陷ラシムルコト勿レ君主ニ苛刻ノ處分ヲ強

ムルハ恰モ之ニ罪ヲ行ハシムルト同一ナルヲ忘ルコト勿レ
 請フ試ミニ之ヲ思へ我輩ハ一ノ人民ナリ我輩ハ自由ノ撰舉權ヲ有ス
 君主ニ過失アルモ何ソ憂フルニ足ランヤ一タヒ刑ノ言渡ヲ受ケシ宰
 相ハ假令ヒ之ヲ免カルコト雖モ其權ヲ恢復スル能ハサルヤ必セリ君
 主ハ宰相ノ爲メ特權ヲ行ヒ特赦ノ寬典ヲ加フルモ其罪既ニ明ナリ彼
 レ胡爲ソ再ヒ志ヲ逞ウシテ己レヲ敵視セル多數者ト共ニ國家ヲ治ム
 ルヲ得ンヤ又胡爲ソ撰舉ヲ更新シテ己レヲ贊成スヘキ多數者ヲ組成
 スルヲ得ンヤ何トナレハ公議輿論ノ勢必ス議院ニ彼レヲ敵視スル多
 數者ヲ出現セシムヘキヲ以テナリ
 若シ我輩ハ人民ニ非ス又自由ノ撰舉權ナシトセハ予ノ計畫スル所無
 益ナルヘシト雖モ然ル時ハ我輩ハ暴政ヲ受クルニ當テハ憲法上ノ方
 法ヲ用ユルコトナク腕力ヲ以テ勝テ制スルノ外他ニ之ニ應スルノ策ナ

シ此ノ如クナレハ我輩ハ宰相ヲ監督シ之ヲ訴ヘ及ヒ之ヲ裁判スルヲ要セス唯之ヲ顛覆シ之ヲ誅戮シテ止ムヘキノミ

第十三章 責任ノ効果ニ關シテ前數章ニ論定シタル所ノ結局ヲ

論ス

前數章ニ論定シタル所ヲ合シテ其結局ヲ考フレハ宰相ハ屢々告發ヲ受ケテ或ハ訴ヘラル、トアリト雖モ其刑ノ言渡ヲ受クルハ稀ニシテ其罰セラル、ハ殆ントナシト謂ヘキナリ
宰相ニ罪アル時モ通常人ニ罪アル時ノ如ク嚴ニ刑ヲ科スルヲ以テ正理ニ適シ且緊要ナルトナリト思惟スル者ハ此結局ヲ一見シテ或ハ之ヲ不充分ナリト論スルナルヘシ
然リト雖モ此說ノ如キハ予ノ同意スル能ハサル所ナリ
予謂テ宰相ノ責任ヲ定ムルハ殊ニ二箇ノ目的ヲ達スルヲ要ス一ハ

有罪ノ宰相ヨリ權威ヲ剝奪スルニ在リ一ハ代議士ニ監督ノ權ヲ授ケ其論辨ヲ公ケコシ出版ヲ自由ニシテ人民ニ國務ヲ驗査スルノ精神ト憲法ヲ保全シ公事ニ參與スル確乎不拔ノ志氣トヲ保有セシメテ其政治思想ヲ涵養スルニ在リ
然ラハ則チ責任内ノ事件ニ關シテハ通常事件ニ於ケルカ如ク無罪者ト雖モ必スシモ安堵セシムルコト及ハス又有罪者ト雖モ必スシモ罰スルヲ要セス此事件ニ於テハ罪ノ有無確然タルコト少キヲ以テ唯望ム所ハ絶ヘス詳カニ宰相ノ行狀ヲ監督シ且ツ其罪極メテ兇惡ニシテ成文法ヨリ觀察スルモ成文法ニ比シテ寛大ナル良心ト通理ヨリ觀察スルモ共ニ特赦ノ恩典ヲ施スヘカラサルカ如キ時ニ非スンハ可成之ニ防禦ノ方法ヲ授ケ以テ監督ノ衝ヲ避ケシムルニ在リトス
此ノ如ク責任ニ關スル法律ノ執行ヲ寛大ニスルハ其基礎タル原則ヨ

リ當然生スル所ノ効果ナリトス
 責任ヲ執行スルニ多少專擅ノ所爲ヲ要スヘキ予ノ會テ證明シタル
 所ナリ
 專擅ノ所爲ハ大害ヲ生スルモノニシテ之ヲ國人ニ施ス時ハ何等ノ口
 實ヲ設クルモ以テ正當ナラシムル能ハス國人ト社會ノ關係ハ確定明
 白ニシテ國人ハ社會ノ法律ヲ遵奉スルヲ約シ社會ハ國人ニ之ヲ知ラ
 シメント約シタルカ故ニ國人ニシテ其約定ヲ遵守スルニ於テハ社會
 コリ毫モ之ニ請求スルヲ得ス國人ハ已レノ行フ所ノ効果如何ヲ明知
 シ事々物々一々確定ノ法律ニ因テ裁判ヲ受ルノ權アリ
 宰相ノ社會ト約スル所之ニ異ナリ宰相ハ榮譽權勢若シハ財產ヲ得シ
 カ爲メ隨意ニ相牽連密接セル重大ニシテ錯雜ナル職務ヲ受ケタルヲ
 以テ其爲ス所ハ全部ニ就テ觀察スヘク別々ニ論議スヘカラサルナリ

故ニ宰相ハ其行狀ノ全体ニ就テ裁判ヲ受クルヲ承諾シタルヤ明ナリ
 而ルニ行狀ノ全体ハ確定ノ法律ニテ規定セシムル能ハス是レ臨
 機ニ處分ヲ施ス官權ヲ用ヒテ之ヲ裁判セサルヘカラサル所以ナリ
 然レモ國安ヲ害セサル程度ニ至ル迄此官權ヲ寬大ニ行フハ丁寧ノ通
 理ニシテ社會ノ固守スヘキ本分ナリ於是乎世事ノ羈束ヲ受ケサル職
 員ヨリ構成シタル特別裁判所ヲ設ケ此裁判所ニ本心ニ因テ處分ヲ施
 シ且ツ刑ヲ撰擇スルノ權ヲ授ケルナリ又宰相ハ位尊ク君主ト親密ナ
 ルヲ以テ君主ノ國人一般ニ施スヲ得ヘキ特與又宰相ノ爲メ特ニ之ニ
 施スヲ許ス
 宰相ノ刑ニ服役スルハ極メテ稀ナリ是レ予ト雖モ慮ハカラサルニ非
 ス然レモ若シ憲法ハ自由主義ニ基キタルモノニシテ國民ノ志氣剛毅
 ナレハ宰相ニ刑ヲ科セサルモ其裁判ヲ受ケタル後ハ其權力地ニ落チ

常ニ世人ノ卑シム所トナリ其再ヒ志ヲ違ウヌルヲ得サルヲ鏡ニ懸ケ
 テ見ルカ如シ何ソ自由ノ滅滅スルヲアラシヤ何ソ民必振起セサルコ
 アランヤ又何ソ公德ノ衰頽スルヲアラシヤ
 ワスチング氏ハ刑ヲ受ケサリシニ非スヤ然レヒ此印度ノ壓制者ノ膝
 チ屈シテ上院ニ出ツルヤホツクス氏セルダン氏ビユルケ氏ノ聲能シ
 人道ヲ既倒ニ恢復シ英人ノ腦裏ニ義烈ノ志氣ヲ振起セシメ正理ノ感
 覺ヲ興發セシメ不義ノ利ヲ得ルノ恃ムヘカラサルヲ明カコシタリ
 ロールメルヒール氏モ亦刑セラレサリシニ非スヤ氏ニ罪ナシト云フ
 ハ予ノ争フヲ欲セサル所ナリト雖居然レモ世故ニ熟シ權謀ニ巧ミニ
 シテ許多ノ黨人ヨリ保護ヲ受クルト彼レカ如キ者モ尙ホ告發セラレ
 テ訴ヲ受クルヲ免レサルト明ナルニ至レリ亦以テ宰相ノ任ニ當ル者
 ハ節義ヲ重ニスルノ利益ニシテ正道ヲ踏ムノ安全ナルヲ悟ラシムル

ニ足ルヘシ

ロールノルト氏ハ幸コシテ訴ヲ免カレシニ非スヤ然レモ其敵黨ハ參
 政自由ノ原則ヲ擧ケ國家ノ各部ハ承諾シタル義務ニ非スンハ之ヲ負
 擔スルノ責ナシト證明シタルヲ以テ其理明確ナルヲ得タリ
 又遠ク古ニ迦レハワイルケ氏ヲ凌虐シタル宰相ハ罰金ヲ拂フヘキノ
 言渡ヲ受ケタルニ過キサリシカ其言渡アリシヨリ人身ノ自由安全ニ
 シテ英人ノ家屋ハ其堅城ナリトノ法則ヲ生スルニ至レリ
 此數者ハ皆是レ責任ヲ負ハシメタル利益ニシテ禁錮及ヒ其他ノ刑罰
 ヨリ生シタル利益ニ非サルナリ
 死刑及ヒ禁錮ハ人民ノ安全ニ必要ナラス人民ノ安全ハ一ニ人民ニ在
 テ存ス職務ヲ剝奪セラレシ宰相ノ生存シ又ハ自由ヲ有スルヲ畏ルハ
 カ如キ人民ハ卑賤ノ人民ニシテ恰モ主人ヲ歐殺シ其鞭ヲ手ニシテ再

出センヲ畏ル、ニ等シキ奴隸ナリト謂フヘシ
 罪アリト判決セラレシ宰相ヲ處分スルハ後來他ノ宰相ノ龜鑑ト爲ス
 カ爲メニシテ固ヨリ嚴ナルヲ要セサルニ非ス然リト雖モ其訴ヲ受ケ
 テ耻ヲ歐洲全土ニ曝ラシ裁判ヲ受ケテ顯榮ノ位ヲ失ヒ黨與ヲ失テ悲
 痛スルノ笑ヲ遺スニ至ルハ其欲心ヲ折シキ驕心ヲ挫クニ充分ナル嚴
 刑ニシテ以テ後來ノ龜鑑ト爲スニ足ルヘシト思惟スルナリ
 宰相ノ責任ニ歸スル犯罪ニ關シテ之ヲ寛大ニ遇スルモ毫ノ國人ノ權
 利及ヒ安寧ヲ損フコトナカルヘシ何トナレハ國人ノ權利ヲ損ヒ其安寧
 ナ害スル犯罪ハ責任ノ範圍外ニ在ルヲ以テナリ抑モ宰相ハ宣戰ノ正
 否又ハ利害ヲ誤マルコトアリ條約ヲ締結スルニ空シク讓與ヲ爲スコト
 アリ又財政ヲ行フニ付テモ其處分ヲ誤マルコトアルヘシ是レ其裁判官ニ
 其心意ヲ秤量シ以テ投機應變ノ處分ヲ施ス臨機ノ權ナキ能ハサル所

以ナリ然レモ國人ノ自由ヲ害スルニ至テハ宰相トシテ其罪ナルヲ知
 ラサルコトナシ其之ヲ知ルヘキハ恰モ同一ノ所爲ヲ行フ他ノ國人ニ異
 ナラス故ニ特赦ハ責任ニ關スル事件ニ正ニシテ不法若クハ專擅ノ所
 爲ニ邪ナラサルヲ得ス是以テ宰相ノ普通法ヲ犯シタル時ハ嚴ニ之ヲ
 適用シ通常裁判所ニ確平タル處分ヲ爲シ確定ノ刑ヲ宣告セシメ其言
 渡シタル刑モ言渡書ノ儘固ク施行セシメサルヘカラス

此場合ト雖モ帝王ノ特赦ヲ施スナ得ヘキト固ヨリ他ノ場合ニ異ナラ
 ス然レモ犯人ニシテ特赦ヲ受クルモ被害者ハ敢テ裁判所ノ言渡シタ
 ル償金ヲ失フコトアラサルナリ
 今ヤ責任ノ義解ヲ確定スルハ甚シク有益ナル所以ヲ知ルヘシ宰相ノ
 行狀ヲ審理スル訴訟手續ヲ寬ニシテ通理ノ望ム所ニ適合セシメ其職
 務外ニ出テ專擅ノコトヲ行ヒタル時モ之ニ對シテ國人ノ權利ヲ保護ス

ルヲ得ヘキハ皆之ニ是レ因ルナリ

第十四章 人身自由論

責任ニ關スル事項ハ予既ニ之ヲ論究セリ今ヤ予ノ希フ所ハ博識銳敏ノ士出テ、之ヲ矯正シ將來其實際ニ行ハレントヲ欲スルニ在ルノミ然リト雖モ本書ニハ人身自由論ヲ加ヘ予カ總テ此自由ニ關スルモノヲ重シタリシ所以ヲ證明シ且ツ今日迄世人ノ之ヲ觀察シタル方法ヲ論セズンハ予ハ之ヲ結了スルヲ得サルナリ

人身自由ヲ害スルトハ法律ニ因テ正當ノ理由ヲ指示セズ專ラ見ル所ニ任シテ擅ニ人ヲ強制スルニ外ナラス故ニ人ニ對シテ何々ノ地ニ住居スヘカラスト禁止シ又ハ之ニ禁錮ヲ施シ又ハ一タヒ見聞シテ忽チ恐怖ノ念ト憤怒ノ情ヲ發セシムル不潔ノ獄舎若クハ暗黒ノ洞道ニ之ヲ幽囚シ其理由ニ至テハ論外ニ置キ敢テ之ヲ指示セサルカ如キハ皆

人身自由ヲ害スルモノトス或ハ政府ニ右ノ如キ所爲ヲ行フノ權アルヲ見テ警察上ノ權限ナリト爲ス者許多アリ此者ハ己レニ其害ヲ受ケスシテ常ニ其執行者タラント欲シ政府ニ此權アルハ公安ヲ維持シ秩序ヲ保全スル良善ノ治具ナリトセリ又他ノ暗愚ナル者ハ之ヲ目シテ稀ニ一個人ヲ害スルニ過キサルモノナリト云ヘリ嗟呼何ソ思サルノ甚シキヤ政府ニ此權アルハ危險ニシテ其危險ノ大ナルヲ殆ント預想外ニ出ツヘシ予曾テ一書ヲ著ハシ專擅ハ宗教道義人知ノ進歩工藝ノ改良社會ノ品位及ヒ各人ノ幸福ニ危險ヲ及ホス所以ヲ述ヘタリシカ今ニシテ之ヲ再思セハ更ニ腦裏ニ浮フモノ懣シトセス

政府ニ人身自由ヲ害スルノ權限ヲ附スル時ハ法律ノ下ニ集合スル第一ノ要件ニシテ單一ノ目的トスヘキ保安ノ制度ヲ舉ケテ之ヲ消滅セシムルニ至ルヘシ

裁判所ノ不羈自由ニシテ裁判官及ヒ陪審官ノ獨立スルハ世人ノ舉テ希望スル所ナルヘシ然ルニ裁判所ノ職員タル陪審官及ヒ裁判官ニシテ擅ニ拘留セラレ、トアレハ其不羈獨立ノ權ハ何ヲ以テ立ツヘシトスル乎其職務ニ關スル所爲ニ就テハ之ニ專擅ヲ加フヘカラストスルモ秘密ト唱ウル事由ヲ名義トシテ之ニ專擅ヲ施ステ許サハ果シテ如何ナル結果ヲ生スヘシトスル乎裁判官及ヒ陪審官法庭ニ在テ法律ノ犯スヘカラスト命スル場所ヲ領スル時ハ政府ハ固ヨリ之ニ命令ヲ行ハシメント欲スルコトナカルヘク又裁判官及ヒ陪審官政府ノ意ヲ顧ミス固ク本心ニ從テ處分ヲ爲ス時モ政府ハ裁判官又ハ陪審官トシテ之ヲ拘留シ又ハ追放スルヲ肯ニスルコトナカルヘシ然レモ政府ニシテ之ヲ拘留シ又ハ追放セントセハ嫌疑アル平人トシテ自由ニ之ヲ拘留シ又ハ追放スルヲ得ヘシ其少シク反省スル所ハ其敵視セル裁判官渡ノ

時日ヲ經テ漸ク世人ノ之ヲ忘ル、ヲ待ツニ過キサルノミ然ラハ則チ警察上ノ專擅ヲ受クルハ獨リ微々タル國人ノミニ非ス其災延ヒテ裁判所ノ裁判官陪審官及ヒ被告人ニ及フヘキナリ
裁判官渡ヲ待タスシテ拘留又ハ追放ヲ行フ國ニ於テハ人知チ増進セントシテ出版ヲ自由ニシ又ハ安全ニスルモ何ノ益カ之レアラソ法律ヲ守テ之ニ抵觸セサルモ一タヒ政府ノ持論ト撞着シ又ハ其行爲ヲ攻撃スレハ記者トシテ拘留又ハ追放ヲ受クルコトナキモ別段ノ言渡ナク單ニ危害アル者トシテ拘留又ハ追放ヲ受クルニ至ル
此明々白々ノ道理ハ何ソ例ヲ引テ喋々スルニ及ハンヤ夫レ此ノ如キ國ニ於テハ凡ソ社會ニ立ツ者ハ職業ノ公私ヲ論セス常ニ安全ナル能ハス債主ニシテ政府ノ官吏ヲ被告トシ父ニシテ之ニ母ヲ與フルヲ拒ミ夫ニシテ之ニ妻ヲ假スヲ抗ミ或ハ事ヲ同ウシテ之ト競争シ又ハ職

務ニ因テ之ヲ監督スルニ於テハ其怒ヲ招クヲアルモ固ヨリ債主若クハ父若クハ夫若クハ競争者若クハ監督者トシテ拘留又ハ追放ヲ受クルヲナカルヘシト雖モ然レモ政府ハ秘密ノ理由ニ因テ自由ニ拘留又ハ追放ヲ行フヲ得ヘキカ故ニ誰カ政府ハ此秘密ノ理由ヲ案出セサルヘシト安ニスルヲ得ンヤ國人ハ政府ニ對シテ公ケニ其理由ヲ尋問スルヲ得サル上ハ政府ニテ何事ヲ爲スモ奈何トモスル能ハス又萬一政府ヨリ公衆ニ其理由ヲ示スヲ要ストシテ之ヲ示シタリトスルモ國人ニ其正邪ヲ驗査シ其當否ヲ判定スルノ權ナクンハ誰カ其暴虐ヲ掩蔽スルノ誣言ヲサレナキヲ保スルヲ得ンヤ

專擅ニシテ一タヒ行ハルレハ何物カ能ク其害毒ヲ免カル、ヲ得ン法律額レ制度廢レ約束ハ變シテ詐僞トナリ人民保護ノ規則モ化シテ之ヲ籠絡スルノ器械トナリ而シテ之ヲ信據スル者ハ却テ害ヲ受クヘシ

請フ續者予ヲ目シテ不祥ノ事例ヲ示指スルモノト爲ス勿レ今ノ世之ニ類スルモノナキハ予ノ喜ンテ承認スル所ナリ予ノ四ヶ月前ニ論述セシモノ以テ其證ト爲スニ足ルヘシ我王室ノ再興ハ幸ニシテ英國王室ノ再興ト異ナル所アリ其民福ヲ保護シ人權ヲ崇尊シ巧ニ過激ノ說ヲ壓抑シテ行ハル、ヲナカラシメタルカ如キハ遙ニ英國ノ右ニ出ツ我王室ノ廷議ハ常ニ温厚ヲ主トス其徳ハ仰望セサルヘカラス其知ハ欽慕セサルヘカラス其意ハ安寧ヲ授クルノ原因ナリト爲サ、ルヘカラス然リト雖モ自由ヲ鞏固ニシテ之ヲ保全スル方法ヲ定ムルハ必ス明君賢相ノ時ニ行フヲ要ス自由ヲ鞏固ニシテ之ヲ保全スルノ制度ヲ許スハ獨リ明君賢相ノミ明君賢相ハ自由ヲ盛ニシテ畏ル、所ナキナリ或ハ曰ク壓制者ナクシテ我君主ノ如キ温厚賢明ナル君主ノ治下ニ生活スルノ幸福ヲ有スル時ハ自由ヲ妨禦スルノ方法ヲ設クルモ何ノ

益カコレアヲノト然レモ若シ後代ニ至テ一タヒ壓制者ノ出現スルアラハ論者ハ奈何シテ自由ヲ防禦スルノ方法ヲ設クルヲ得ヘキ乎自由ヲ防禦スル方法ヲ設クルノ益ナキ時ハ之ヲ設クルヲ時ナリ之ヲ設クルノ必要ナル時ハ之ヲ設クル能ハサルノ時ナリ且ツ夫レ君主ノ温厚篤實ニシテ宰相ノ賢明潔白ナルハ以テ自由ヲ保全スルニ足ルヘシトスル乎君主ト宰相ニハ許多ノ屬官アルニ非スヤ屬官ハ人民ニ直接ノ所爲ヲ施スニ因テ益々強キニ非スヤ屬官其人ヲ得スノハ益々之ヲ監督スルヲ要スルニ非スヤ凡ソ專制主義ヲ稱賛スル者ハ常ニ人民ヲ見テ政府ノ首長ト關係アルニ過キスト思惟セリ然レモ人民ハ第二段ノ官吏ト最モ直接ノ避クヘカラサル關係アリトス若シ政府ニ許スニ法律ニ因ラス裁判ヲ仰カスシテ追放禁錮又ハ其他ノ刑ヲ行フヲ以テスル時ハ是レ國人ヲ擧ケテ王

權ノ下ニ附スルニ非ス又宰相ノ權ニ委ヌルニ非スシテ下等官吏ノ鞭撻ノ衝ニ當ラシムルモノナリ然ル時ハ下等官吏ハ假リノ處分ヲ施シテ之ヲ害シ然ル後誣説ヲ構造シテ其非ヲ掩蔽スルヲ得ヘキカ故ニ社會ヲ欺クハ其手裏ニ存シテ何人モ之ヲ防禦スル能ハサルナリ帝王ト宰相ハ日夜孜々トシテ國務ニ從事シ國威ヲ颺チ民福ヲ増シ以テ國家ノ富強ヲ圖ラル、トスルモ其事務ノ區域極メテ廣シ其各人ノ利益ニ至ル迄細密ニ秤量スル能ハサルヤ明ナリ尤モ各人ノ利益ハ全國ノ公益ニ比スレハ微々トシテ涓埃モ啻ナラスト雖モ生命自由安寧ノ三者ハ皆之ニ係ラスノハアラス胡爲シ之ニ放擲シテ可ナランヤ是ヲ以テ之ヲ保護スルノ任ハ之ヲ保護スルヲ得ヘキ者ニ委ネサルヘカラス而シテ之ヲ保護スルヲ得テ丁寧深切極メテ公明ナリト仰望セラル、者ハ裁判所ヲ捨テ、其レ何處ニアルヤ裁判所ハ特ニ爭論ノ原因ヲ探リ告

訴ノ正否ヲ糺スノ任アリテ何事モ深ク研究シ精ク秤量スヘキ義務ト
 時間ト有スルニ非スヤ
 予ハ追放ト雖モ敢テ專擅ノ拘留及ヒ禁錮ト區別スルヲ肯ンセサルナ
 リ世人ノ追放ヲ見テ最輕ノ刑ナリトスルハ甚シキ誤見ナリ是レ舊ト
 君主政治ノ時代ヨリ傳ハル事例ニ拘泥アルノ致ス所ニシテ其原因ハ
 二三ノ名士ノ追放セラレシ况情ヲ見聞シテ知ラス識ラス惑ヲ起タル
 ニ在ルハシヨワヅール氏ノ追放セラル、ヤ其朋友故舊相爭テ之ヲ
 敬愛保庇セシカ是ヨリ漸ク追放ハ光榮ヲ表シ功名ヲ顯ハスモノナリ
 トノ妄想ヲ生セシムルニ至レリ然レモ更ニ他ノ時代ニ着眼シテ身位
 ノ卑賤ナル者ノ追放セラレシヲ見ヨ其追放ノ慘刻ナル忽ニシテ感ス
 ルヲ得ヘシ蓋シ此ノ如キ者ヲ追放スル時ハ妻子トノ間ヲ斷ツトアリ
 商業ニ離レシムルトアリ其親族ノ養育ヲ妨ケ又ハ之ヲ薄情ノ人ニ託

セシムルトアリ其朋友ヲ絶交セシムルトアリ其老シテ恃ム所其樂ン
 テ學ム所ヲ害スルトアルヘシ然ラハ則チ追放ハ被放者ヲ貧困ニシテ
 無情ノ新國ニ投シ其生計ヲ危ウシテ快樂ノ道ヲ塞クモノナリ被放者
 ヲ苦界ニ沈メテ無實ノ嫌疑ヲ受ケシメ外人ノ刻遇ニ附シテ賤吏ノ凌
 駕ヲ受ケシムルモノナリ被放者ヲ疲ラシテ其親友ヲ奪ヒ之ニ知友ヲ
 忘レシメテ故國ヲ想フノ情ヲ薄ウシ終ニ自暴自棄ノ念ヲ生セシムル
 モノナリ嗚呼裁判所ノ審問ニ附セス公ケノ證據ヲ用ヒス適法ノ裁判ヲ
 仰カスシテ此ノ如キ刑ヲ科スルノ權ヲ行ハ、被治者タル者誰カ一日モ
 其身ヲ安シスルヲ得ンヤ况ヤ政府ニ之ヲ許スハ無數ノ官吏ノ手裏ニ
 委ネテ其專擅ニ任スルニ等シキヤ嗚呼此權ヲ以テ特赦ノ權ニ比ス
 ルハ惡ヲ行フ有害ノ權ヲ以テ善ヲ爲ス仁慈ノ權ニ準スルナリ帝王ニ
 宥恕スヘキ罪人ヲ救助スルノ權アリトシテ罪人ヲ害スルノ權アリト

爲スナリ英國ノ著者某曰ク臣民ニハ王顔ヲ拜シテ安堵ノ念ト歡喜ノ情ヲ起サシメサルヲ得スト今裁判ヲ仰カスシテ追放ヲ行フ是レ王名ヲ假リテ國人ニ不法不正ノ處分ヲ施スモノナリ宇内万国ノ憲法ハ成文法ト不文法トヲ問ハス人民ヲシテ帝王ノ權威ヲ仰望セシメシカ爲メ帝王ノ法律ヨリ仁慈ナランコトヲ欲セサルハ莫シ然ルニ裁判ヲ須ヒスレテ追放ヲ行フハ是レ帝王ノ權威ヲ以テ專擅ト暴政ノ器械ト爲スニ異ナラサルナリ

予ハ茲ニ許多ノ國人ヲ不幸ニ沈淪セシメテ遂ニ王室ヲ顛覆スルノ原因トナリタル彼ノ密書嫌疑アル者ヲ竊ニ拘留禁錮スル令狀ノ制ヲ他ノ名義ニテ設定セントスルノ説ヲ駁スルニ當リ予ノ謂フ所ハ成文法ノ明文ト同シキヲ知レリ刑法第十一條第四十四條第四十七條第四十八條第四十九條及ヒ第五十條ノ確的ナル明文ニ因ルニ何レノ官吏モ國人ヲ

追放シ又ハ其住所ヨリ遠サクルノ權ナシ今予ノ説ノ適當ナル所以ヲ證センカ爲メ予ハ茲ニ此數箇條ヲ掲ケン第十一條ニ曰特別ノ監視ハ云々重罪輕罪ニ通シ用ユル刑ナリ第四十四ニ曰ク監視ハ本刑ニ服役シタル後之ヲ科セラル、者ヨリ又ハ其幼年ナル時ハ父母後見人若クハ管財人ヨリ裁判言渡ノ定ムル高ニ至ル迄其行狀ノ保證金ヲ請求スルノ權ヲ政府并ニ管係人ニ附與スルノ効ヲ生スルモノトス但シ此保證金ハ何人ヨリ出スモ妨ケナシ若シ之ヲ出ス者ナキ時ハ政府ハ引續テ受刑者ヲ監視シ或ル土地ヨリ之ヲ遠サケ又ハ佛蘭西國ノ州ノ定マリシ土地ニ之ヲ住居セシムヘキ旨ヲ命スルヲ得ヘシ第四十七條ニ曰ク徒刑又ハ懲役ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者其刑ニ服役シタル後終身間當然政府ノ監視ヲ受クヘシ第四十八條ニ曰ク追放ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其服役スヘキ刑ノ期限ニ等シキ

時間當然監視ヲ受クルモノトス第四十九條ニ曰ク國ノ内部又ハ外部ノ安寧ヲ害スル重罪又ハ輕罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者モ其刑ノ期限ニ等シキ時間監視ヲ受クヘシ第五十條ニ曰ク前數條ニ定メタル場合ノ外法律ノ特別ナル明文ノ許ス時ニ非スンハ受刑者ヲ監視ニ附スヘカラス

是ニ由テ之ヲ觀レハ第一或ル土地ヨリ國人ヲ遠サケ又ハ土地ヲ定メテ其中ニ住居スヘシト命スルヲ得ヘキ政府ノ權ハ監視ヲ爲スノ効果ニ過キス第二政府ノ此權ヲ有スルハ受刑者ヨリ常ニ出スヲ得ヘクシテ政府ノ拒ムト能ハサル保證金ヲ差出サ、ル者ナキ時ニ限ルヘシ第三監視ハ適法ノ裁判言渡ニ因テ定マリタル刑ノ効果ニ過キス第四監視ハ受刑者ニ非スンハ科スルヲ得ス第五刑法ノ此章ニ定メタル場合ノ外政府ハ何人ニモ監視ヲ施シ又ハ何レノ地ニ住

スヘシト命スルヲ得ス又何人ヲモ其住所ヨリ遠クルヲ得ス故ニ國安ヲ害スル罪ヲ犯シタル者ト雖モ裁判言渡ノ後ニ非サレハ監視ニ附スルヲ得サルト他ノ犯罪人ト同一ナリ何トナレハ刑法ニ監視ハ刑ノ言渡アリタル後ニ非スンハ之ヲ科スヘカラストアルヲ以テナリ

然ラハ則チ監視ナル附加刑ヲ生スヘキ本刑ノ言渡ヲ受タリシトナク又其言渡ヲ受ケタリトモ行狀ノ保證金ヲ出スヲ拒マサルカ又ハ之ヲ出スト能ハサルニ非サル者ヲ其住所ヨリ遠ケ又ハ其意ニ反シテ其住所ヲ定ムルカ如キハ曾テ拿破烈翁ノ屢々行ヒシ所ナリト雖モ是レ其自ラ定メタル法律ヲ犯シタルノ所爲ナリ拿破烈翁ノ治下ニ於テモ宰相ハ追放ヲ命スルノ權ナク官吏モ文官ト武官トナ問ハス此命ヲ執行セシムルノ權ナク國人モ亦敢テ之ニ從フノ義務ナシ

此事ニ關スル法律ハ今尙ホ存シテ其効力ヲ全フス
 蕞爾タル希臘ノ共和國ハ甚シク民主々義ニ拘泥シ人民ノ投票ニ從テ
 有害ナリト見認ムル者ヲ追放シタリト雖也是レ學士論者カ不正ノ甚
 シキ所爲ナリト見認ムル所ニシテ固ヨリ標準ト爲スニ足ラサルナリ
 今世ト異ナル大古ノ事ハ以テ今日ニ裁判ニ據ラサル追放ヲ辨明スル
 ニ足ルヘキ乎我輩ハ拿破烈翁ノ治下ニ於ケル如ク古昔ノ不正ノ制度
 ヲ集合シ之ヲ改鑄シテ之ニ摸放セサルヘカラサル乎
 論者曰ク政府ノ官吏ヲノ其權外ニ出ツルコトナカラシムルハ輿論ノ力
 以テ之ヲ保スルニ足レリト然レモ專擅ヲ許ス國ニ於テハ輿論ハ何ヲ
 以テ勢力ヲ有スルヲ得ヘシトスルヤ輿論ヲ公演スル者ハ法律ニテ之
 ヲ表明スルノ任ヲ受クル者ニ至ル迄舉ケテ專擅ノ壓抑スル所ト爲ル
 ヘシ噫論者ハ錯誤ニ非スンハ故意ヲ以テ我輩ヲ四塞ノ地ニ誘導セシ

トスル乎輿論ニ因テ專擅ヲ制セント云フハ專擅ニテ輿論ヲ撲滅セン
 トスルニ異ナラサルナリ但シ輿論ハ撲滅セラレ、ト雖モ其陰然ト存
 立スルハ予ノ見認ムル所ナリ蓋シ輿論ノ撲滅セラレ、ヤ匿シテ人心
 ニ入り更ニ氣力ヲ養生シテ内ニ沸騰シ或ハ發シテ陰謀トナリ或ハ激
 シテ亂原トナルヘシ
 論者ヨ汝ハ良民ノ罪ニ陷イランヲ畏レテ頻リニ其自由ヲ妨害セント
 論スルハ其此ニ至ランヲ欲スルカ故ナルカ
 權威ナシ又品位ナキ者ノ少シク不平ヲ唱フル時又ハ二三ノ國人相集
 テ無益ノ暴言ヲ吐キ若クハ駕空ノ企圖ヲ議スルカ如キ時モ汝ハ正道
 ニ就テ効力ノ完全ナル法律ニ訴フルヲ充分ナリトセス徒ラニ危道ヲ
 踏ニ正道ヲ破テ其集會ヲ中止セサルヲ得ストスル乎政府ノ錯誤ハ十
 萬ノ官吏ニ傳ハリ或ハ禍亂ヲ生シ或ハ民福ヲ損ヒ或ハ騷亂ヲ醸スモ

汝ハ政府ノ專横ヲ防クノ須要ナルヲ感セサル乎弱者ヲ壓制スルノミ
 ニ着眼シテ強者ニ羈絆ヲ脱スルカ如キハ豈ニ奇怪ナリト云ハサルヲ
 得ンヤ
 論者ノ説ノ如クンハ二箇ノ災害ノ生スルヤ必セリ政府ニ專擅ノ所爲
 アル時ハ輿論ハ激動シテ之ヲ攻撃スヘシトシテ政府ニ專擅ヲ許スト
 セハ予ハ同時ニ專擅ト民怨トヲ畏レサルヲ得ス一ハ國人ノ爲メニ畏
 レ一ツハ政府ノ爲メニ畏ル、ナリ予ノ現政府ヲ敬戴スルヤ一步モ人
 ニ讓ラス現政府ハ佛國ニテ騷亂アルコト二十年壓制ノ行ハル、十
 二年ノ後更ニ再興シテ我輩ヲ自由ノ人民ト爲シ以テ思想言論動作ノ
 自由ヲ授ケタル所ノ政府ナリ胡爲ソ之ヲ敬戴シ之ヲ保護シテ其隆盛
 ナルヲ望マサルヘケンヤ政府ハ我身體ヲ安全ニシ我幼兒ヲ救助シ我
 財産ヲ保護シ我家内ヲ靜謐ニシ我輩ニ枕ヲ高フミテ眠ルトヲ得セシ

メ以テ内体ノ幸福ニ至ル迄享有セシムル政府ナリ予ノ之ヲ仰ク日月
 ノ如ク之ヲ愛スルコト父母ニ於ケルカ如シ予カ政府ノ專擅ヲ行フコト
 カランヲ欲スルハ蓋シ之ニ是レ因ルナリ

古ヨリ專擅ヲ行ヒシ政府ハ害ヲ受ケサルハ莫シ一タヒ專擅ヲ行ヘハ
 深ク怨ヲ受ケ後チ其圖ヲ改ムルモ必ス革命ヲ來スノ原因トナルヘシ
 指揮局ノ佛國革命時代ノ顛覆シタルハ妄ニ狐疑ヲ狹ニ漫ニ迷誤ヲ抱キ
 以テ擅ニ法律ヲ停止シ程式ヲ破リ追放ヲ行ヒ禁錮ヲ科シ拘留ヲ施シ
 タルニ因ルナリ彼ノ全世界ヲ震動セシメタル一大英傑ノ廢黜セラレ
 シモ連合諸國ノカラニ因ルニ非ス連合諸國ハ敢爲ノ氣像ニ富ニ義烈
 ノ勇氣ヲ有スル人民ノ屢々挫折シタル所ナリ其帝位ヲ失ヒシハ法律
 チ守ラズ紀律ヲ定メス我意ヲ逞ウシ暴政ヲ行ヒ人言ヲ塞キ裁判ヲ取
 消シ裁判官ヲ虐シ囚人ヲ獄舎ニ流人ヲ州郡ニ充滿セシメ以テ此人民

ト分離シタルノ咎ナリ

現今ノ政府ハ良善ノ性質ヲ有シ無二ノ時代ニ再興シ貴重ノ要件ヲ具
フルヲ以テ各國政府ノ通弊トスヘキ此危險ヲ避クル最上ノ地位ニ存
セリ其成立正ニシテ數百年間尊崇セラレ加フルニ今日ノ開明ニ遇フ
奈何ソ善美ナラサルヲ得ンヤ我輩ハ空シク奔命ニ疲レ久シク辛苦ヲ
嘗メ痛ク心身ヲ勞シテ既ニ經驗ニ富ミ已ニ事業ニ明ナリ我輩ハ國亂
ニ遭テ苦ミ壓制ヲ受ケテ悲ミ瘡痍未タ癒ヘスシテ其痕尙オ存ス豈ニ
再ヒ國亂ノ中ニ沈没スルヲ欲センヤ又膝ヲ屈シテ使役ヲ受クルヲ甘
センヤ我輩ニ幸福ヲ與フルハ獨リ法律ノミ我輩ニ寧安ヲ享ケシムル
モ亦唯自由ノミ法律ニ適セス自由ニ觸ル、モノハ我輩ヲ虐殺セシ變
亂黨ト我輩ヲ壓抑セシ專擅者トヲ同時ニ再出セシムルノ因トナルヘ
シ

或ハ此說ヲ目シテ正當ノ政府ニ對シ故意ニ抗抵ヲ爲スニ在リトセリ
思ハサルノ甚シキモノナリ專擅ヲ壓忌スルハ理ニ於テ毫モ政府ヲ攻
撃スル所以ニ非ス專擅ハ政府ナキノ所爲ノミ專擅ニ基ツク權威ハ暴
力ナリ

暴政者ト專擅者ニ歷仕シタル者我輩ヲ毀ルニ絶ヘス抗抵ヲ爲ス者ナリ
ト云フハ實ニ奇怪ナリト謂フヘシ是レ我輩カ未タ曾テ暴政者ト專擅
者ノ使役ヲ受クルヲ欲セサリシカ故ナラン然リ我輩ハ共和政府ノ名
ニテ專擅ノ行ハレシ時ニ當テ之ニ抗抵シ共和政府ヲ顛覆シテ政權ヲ
掠奪シタル者カ變亂黨ノ野心ニ換フルニ驕傲ノ意志ヲ以テスルニ及
ンテ尙ホ續テ之ニ抗抵シ此掠奪者カ人民ノ志望ニ因ラス又歷代仁德
ヲ施シテ暗ニ人民ヨリ承諾ヲ受ケタルニ非スシテ頭首ニ帝冠ヲ戴キ
タル時ニ至テ益々之ニ抗抵シタリ

我輩ハ今日尙ホ向ニ主持シタル原理ヲ主持シテ止マスト雖ヒ最早之ヲ抗抵ナリト爲スヲ得ス何トナレハ我君主ノ公告シタル原則ハ既ニ現行憲法ノ基礎トナリシヲ以テナリ
 試ミニ問ハン今日我輩ハ何ヲ以テ抗抵ヲ爲スモノナリト謂フヲ得ヘキ乎自由ヲ黨論トスル者ハ抗抵ヲ爲シテ何事ヲ希望スルモノナリト論スルヲ得ヘキ乎
 共和政治ヲ希望スルカ故ナルヘシトセン乎我憲法ニシテ行ハルレハ平等ノ權利ヲ占有シ政府ノ專擅ヲ防キ言論ヲ自由ニシ且ツ政務ニ參與シテ我利益ヲ保護シ正理ト公益ニ適スル志望ハ何事ト雖ヒ總テ行フヲ得ヘキ共和政治ノ幸福ハ舉ケテ之ヲ享有スルヲ得ヘシ何ヲ苦ンテ共和政治ヲ希望スルニ至ランヤ
 我輩ノ述ヘシ動カスヘカラサル眞理ヲ主持スルハ拿破烈翁ヲ追慕ス

ルノ意ニ出ツルトセンカ何ソ其レ然ラン抑モ此眞理ハ本世紀ノ主義ニシテ舊慣古格ノ出テ敵對スル能ハサル者ナルニ拿破烈翁ハ常ニ之ヲ撲滅セント計畫セサリシアラス彼レ拿破烈翁ハ夙トニ開明ノ光徳ト文學ノ理論ヲ兩ツナカラ併有シ却テ其本旨ニ背ヒテ之ヲ己レニ利用シタリ譎玩ノ刺激ハポルテールニ在ラハ定見ナキ者ヲ惑ハスニ過キス利己主義ハエルベチユースニ在テハ無意ニ有害ノ學派ヲ唱フルノ用語ニ過キスト雖ヒ拿破烈翁ニ在テハ人心ヲ枯槁貶落シ奮發力ヲ滅滅シ自愛ノ情ヲ薄ウシ友愛ノ性ヲ沮ニ義烈ノ氣節ヲ絶チ善惡正邪ヲ辨別スルノ知識ヲ蔽ヒ此ノ如クニシテ自由ヲ享有シ且ツ保全スルヲ妨クルノ器械トナレリ帝政ノ時人心ハ日々ニ艱難ニ耐ユルノ勇ヲ失ヒ精神ハ益々徳義ヲ重ニスルノ義ヲ捐ヒ不羈獨立ノ氣風ハ地ヲ拂フテ消滅シ其弊ヤ人類ヲシテ獨行獨歩ノカラナク纔ニ牽連シテ漸

ク運轉シ空ニ至尊ト稱スル一人ノ使役ヲ受クヘキ盲目ノ器械ト變セシムルニ至レリ

嗚呼此ノ如キ政略ハ何ソ思慮アル輩ノ追慕スル所ナラシヤ今ハ幸ニシテ壓制ヲ免カル、ノ明世ニ遭ヒ其喜ヒ知ルヘキナリ而シテ其屢々不當ノ法案ヲ攻撃シ偏頗ノ處分ヲ筆誅シテ忌憚セサルハ既ニ得テ未タ久シク享有セサル幸福ヲ失ハシコトヲ畏ル、ノ切ナルニ因ルナリ其益用スル自由ハ固ヨリ戰端ヲ開クノ所爲ニ非ス却テ望ヲ將來ニ屬シ信ヲ現世ニ表スルノ證跡ナリトス

此輩モ精心ノ注ク所又ハ監査ノ至ル所或ハ苛刻ノ言ヲ吐キ或ハ過激ノ畏ヲ表スルコアリト雖ヒ予ハ之ヲ忌ム者ニ對シテ左ノ如ク云ハントス曰ク狂濤ノ靜マリシ後チ渚洲ヲ見テ新ニ狂風アリト觀ルコ勿レト吾人ノ自由ハ甚々新ナリ事煩ハシク其ノ危フカリシコトニ既久シ變

八

亂黨ノ囂々スルニ當テヤ其聲ヲ壓セスンハ事ヲ通スルノ道ナク專擅者ノ權ヲ奮フニ當テヤ至正ノ請願モ勇氣ヲ奮勵シテ障礙ヲ除カスンハ之ヲ行フテ得サリシニ非スヤ此ノ如クニシテ何ソ温厚篤實ノ氣風ヲ生セシムルヲ得ンヤ然ルニ今ハ幸ニシテ勇氣ヲ出スモ危險ニ當ルノ虞ナク身ヲ棄テ激ニ出ツルモ以テ榮譽ト爲スニ足ラサレハ此温厚篤實ノ氣風ヲ生セシムルハ正ニ今日ニ在リト謂フヘシ然レヒ予ノ保庇スル人士ニモ又告クルコアリ予ハ之ニ對シテ左ノ如ク云ハントス曰ク奮勵ヲ攻撃ナリト示シ監督ヲ妨害ナリト見ハ峻刻過激ノ舉動ハ毫モ益スル所ナカルヘシト專擅ノ行ハル、時ハ其大小ヲ論セス固ク之ヲ排除シ其一人ノ權利ヲ害スル時モ各々奮進シテ之ヲ責罰セサルヘカラス然リト雖ヒ騷亂ノ後ハ至誠ノ言論モ徒ラニ人心ヲ動搖シ空シシ公衆ノ嫌疑ヲ招クコトナキニ非ス謹マスンハアル

ヘカラス況ヤ裁判所ノ判決ハ一ツトシテ取消サレシコトナク裁判官ノ本
 心モ一ツトシテ枉ケラレシコトナク政体ノ組織自由ノ制度モ一ツトシテ
 害セラレシコトナク不備不明ノ法律モ官吏ノ執行スルコト頗ル寛ナリ予
 ハ曾テ甚シク出版ノ自由ヲ害スル法律ヲ駁撃シ今ニ至テ尙オ其説ヲ
 變ヒスト雖モ其執行ノ寛ニシテ殆ント害ナキコト誰カ其レ之ヲ争ハン
 ヤ今日ハ專制政府ニ與フルカ如キ利益ヲ生セシテ却テ自由ヨリ出
 ツヘキ利益ヲ滅絶スル所ノ有害ノ制限法アルモ其幸ニ思想ノ自由ヲ
 牽制セサルコト亦誰カ之ヲ疑ハンヤ
 害ヲ防キ惡ヲ除カントセハ正チ賞シ善ヲ勸メヨ佛蘭西ハ何レノ時代
 ニ於テモ何レノ政府ノ治下ニ在テモ未ダ曾テ今日ノ如ク自由ナルハ莫
 シト知ルヘシ苟モ憲法ヲ賛成スル者ハ必ス攻撃スル勿レ其心事ハ奈何
 ナルモ疑ヲ挾マスシテ其行ク所ノ道途ト其向フ所ノ目標トニ着眼スヘ

シ現世ヲ計畫スルノ必要ナル時ハ既往ヲ咎ムルモ何ノ益カアツン殊
 ニ高尙ノ知識ト貴重ノ性質トヲ有スル者ニ對シテ疑惑ヲ挾ムヲ謹メ
 ヲ知識品格ハ自由ニ須要ニシテ須臾モ之ト離ルヘカラス自由ヲ愛ス
 ル氣風ハ常ニ其存スル所ニ潜伏シテ邪惡ノ行ハル、妨ケトナルヘシ
 汝等其レ之ヲ服膺シテ一日モ忘ル、コ勿レ
 各人ハ二箇ノ眞理ヲ腦裏ニ銘記シテ行狀ノ方針ト爲スヲ要ス予ハ茲
 ニ歐洲諸王國ニ就テ之ヲ述ヘシトス曰ク尊王黨ハ憲法ノ自由ヲクン
 バ王室ヲ安全スル能ハス自由黨ハ立憲ノ君主ナクンバ自由ヲ鞏固ニ
 スル能ハスト

宰相責任論終

明治十五年十二月二十二日板權免許
明治十六年二月出版

定價金四拾錢

譯者

大塚成吉

下谷區下谷二長町
二十七番地

岡山縣士族

出版人

小笠原美治

神田區神田五軒町
十八番地

發兌

潛心堂

神田區神田末廣町
十三番地

同

小笠原書房

神田區神田五軒町
十八番地

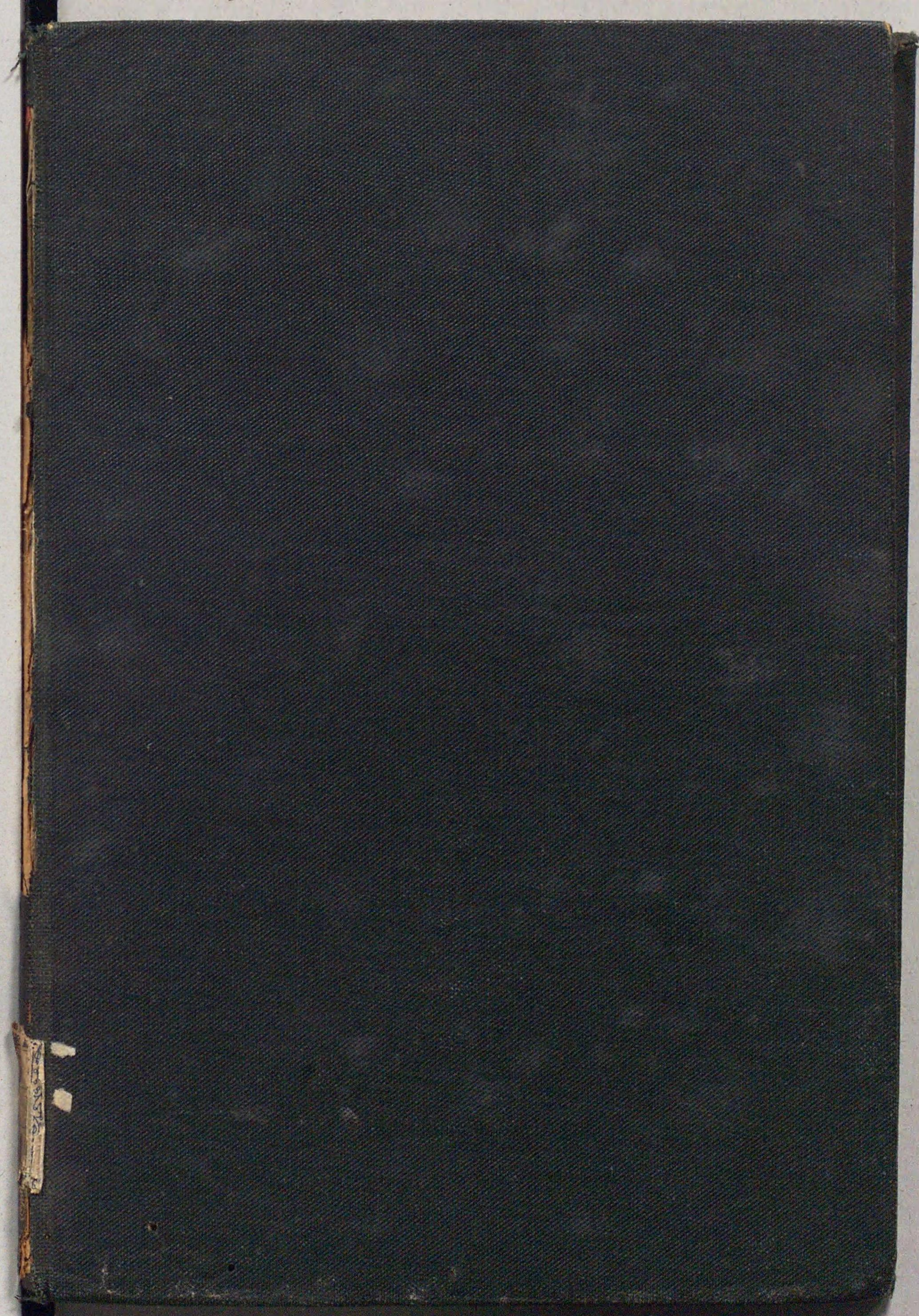
藝州廣島
全
長門萩
紀州和歌山
淡路須本
阿波德島
伊豫松山
土佐高知
全
泉州堺

松友村
松原喜兵衛助
平井文文藏助
福浦文文藏
黑崎精文藏
土肥與平
澤本駒吉
山中久三郎
鈴木久三郎

筑前福岡
全
全
筑後久留米
豐前中津
肥後熊本
肥後大分
肥前長崎
薩摩鹿兒島

山崎登
林野三斧
古野平三
赤司曆三
野依次郎
長崎正三
山川正三
鶴野常三
吉田幸兵衛

25
561

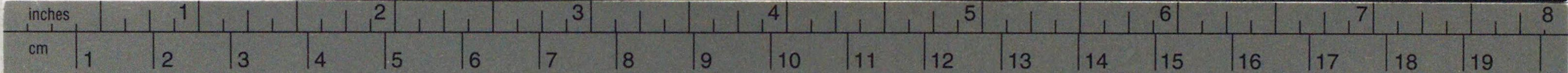


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

